資料 5

大分県地域がん登録報告（罹患年 2015 年）

大分県地域がん登録報告（罹患年 2015 年）

調査の概要

集計期間：罹患年月日が平成 27 年（2015 年）1 月 1 日から 12 月 31 日の 1 年間

集計時期：平成 30 年 10 月 9 日現在

診断年月日の決め方

① 初めて当該がんと診断された年月日をもって罹患年月日とする。

② 届出がなく、死亡小票の写しによってがん罹患が判明した場合、遡り調査対象となり、遡り調査による届出の罹患日を採用する。（2013 年罹患から変更）

集計の対象

① ICD-3 分類において悪性（性状コード３）又は上皮内がん（性状コード２）に分類された腫瘍

② 髄膜又は脳、脊髄、脳神経その他の中枢神経系に発生した腫瘍

③ 卵巣腫瘍

④ 消化管間質腫瘍

⑤ DCO 症例については、死亡票の原死因のみ

集計方法：都道府県がんデータベースシステムより出力

精度指標

DCN（死亡票により初めて把握されたがんの割合）：11.0%（2014 年は 11.0%）

DCO（死亡票の情報のみで把握されているがんの割合）：6.7%（2014 年は 6.9%）

MI 比（死亡数と罹患数の比）：0.43（2014 年は 0.44）

＊上皮内がんを除く

＊DCN は 30%未満、DCO は 25%未満、MI 比は 0.4 程度が望ましいとされている。

届出票件数

拠点病院（6 医療機関）：5602 件

協力病院（2 医療機関）：1212 件

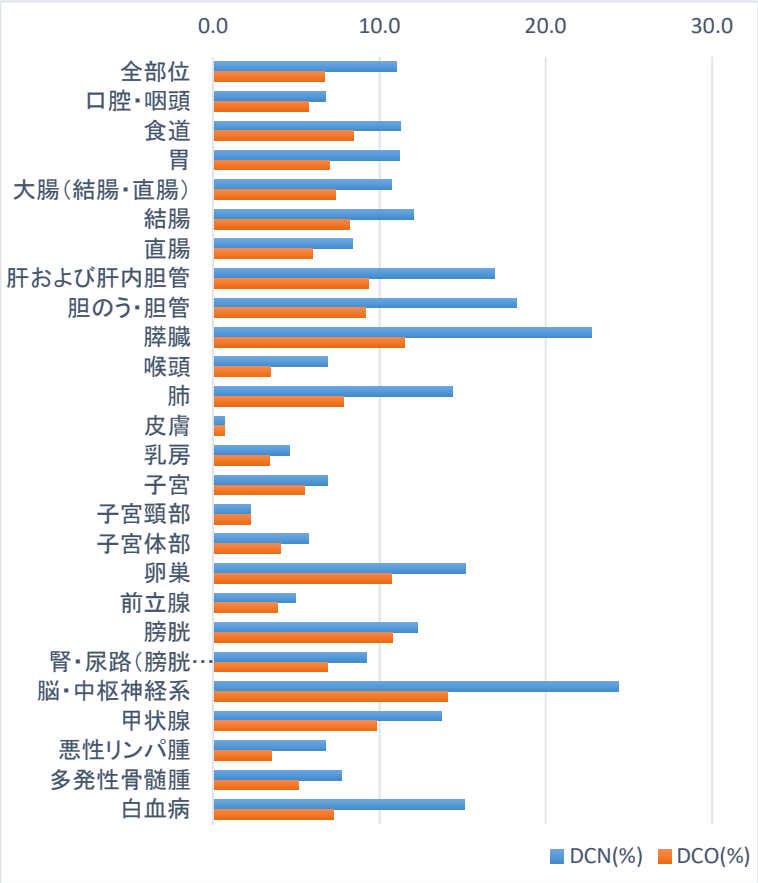
その他県内病院　　：2724 件

県外病院　　：334　件

総数　　：9872 件

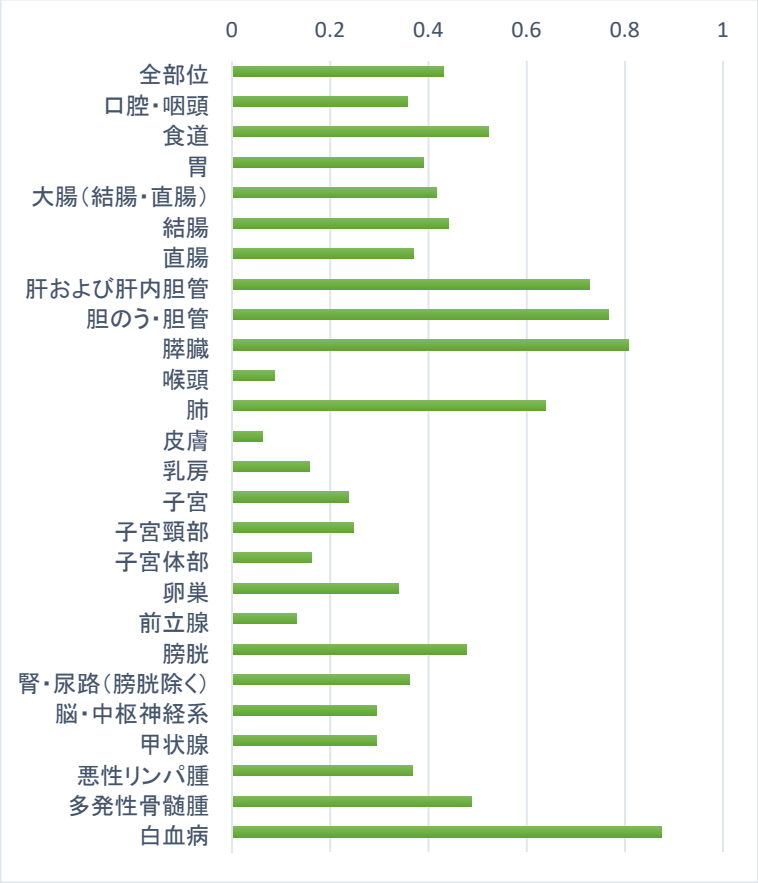
2015年部位別登録精度DCN・DCO（表8-A参照）

部位	DCN(%)	DCO(%)
全部位	11.0	6.7
口腔・咽頭	6.7	5.7
食道	11.2	8.4
胃	11.2	7.0
大腸（結腸・直腸）	10.7	7.4
結腸	12.0	8.2
直腸	8.4	5.9
肝および肝内胆管	16.9	9.4
胆のう・胆管	18.2	9.1
膵臓	22.8	11.5
喉頭	6.9	3.4
肺	14.4	7.9
皮膚	0.7	0.7
乳房	4.6	3.4
子宮	6.8	5.5
子宮頸部	2.2	2.2
子宮体部	5.7	4.1
卵巣	15.2	10.7
前立腺	4.9	3.9
膀胱	12.3	10.8
腎・尿路（膀胱除く）	9.2	6.8
脳・中枢神経系	24.4	14.1
甲状腺	13.7	9.8
悪性リンパ腫	6.8	3.5
多発性骨髄腫	7.7	5.1
白血病	15.1	7.2



2015年部位別登録精度MI比（表8-A参照）

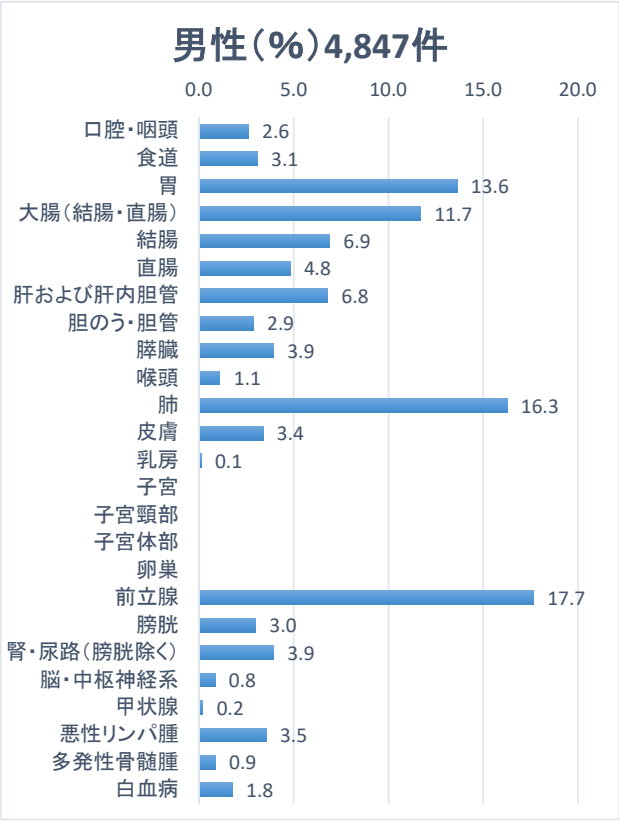
部位	MI比
全部位	0.43
口腔・咽頭	0.36
食道	0.52
胃	0.39
大腸（結腸・直腸）	0.42
結腸	0.44
直腸	0.37
肝および肝内胆管	0.73
胆のう・胆管	0.77
膵臓	0.81
喉頭	0.09
肺	0.64
皮膚	0.06
乳房	0.16
子宮	0.24
子宮頸部	0.25
子宮体部	0.16
卵巣	0.34
前立腺	0.13
膀胱	0.48
腎・尿路（膀胱除く）	0.36
脳・中枢神経系	0.29
甲状腺	0.29
悪性リンパ腫	0.37
多発性骨髄腫	0.49
白血病	0.88

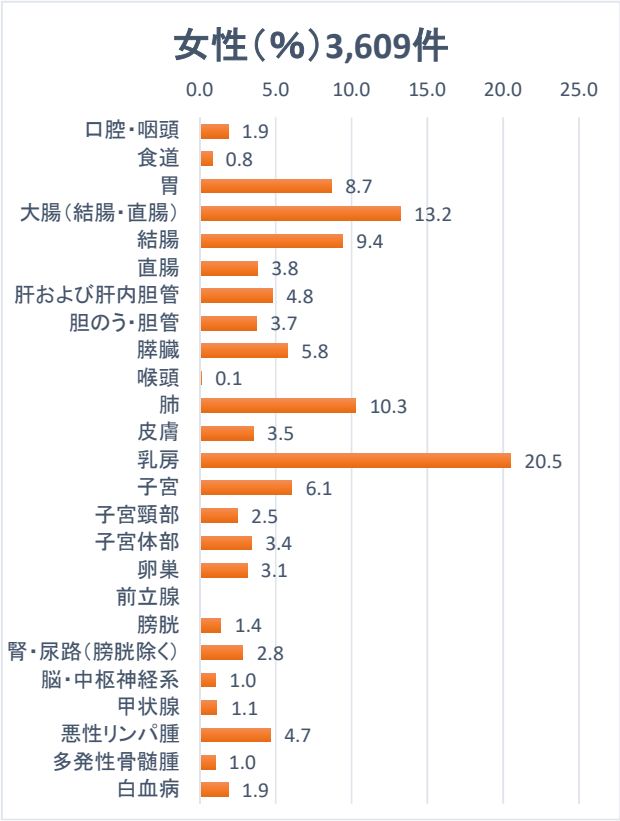


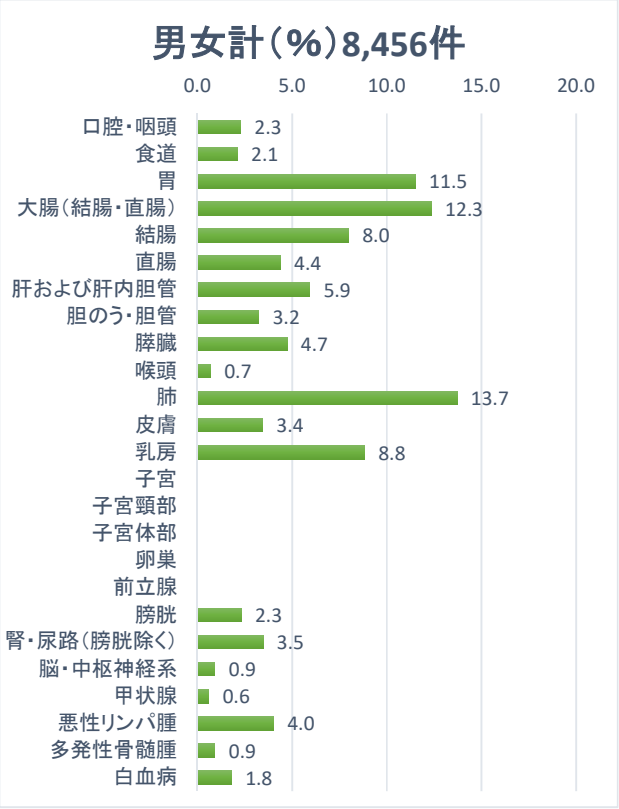
大分県のがん罹患の概要
(1)全体の概要

2015年大分県において、男性延べ4,847件、女性延べ3,609件、合計延べ8,456件のがんが新たに診断された。上皮内がんを含む件数では、男性延べ5,159件、女性延べ4,100件、合計延べ9,259件である。男性で最も多い部位は前立腺(17.7%)で、肺(16.3%)、胃(13.6%)と続く。女性で最も多い部位は乳房(20.5%)で、大腸(13.2%)、肺(10.3%)と続く。全体で最も多い部位は、肺(13.7%)で、大腸(12.3%)、胃(11.5%)と続く。

部位別がん罹患割合　*表1-A参照





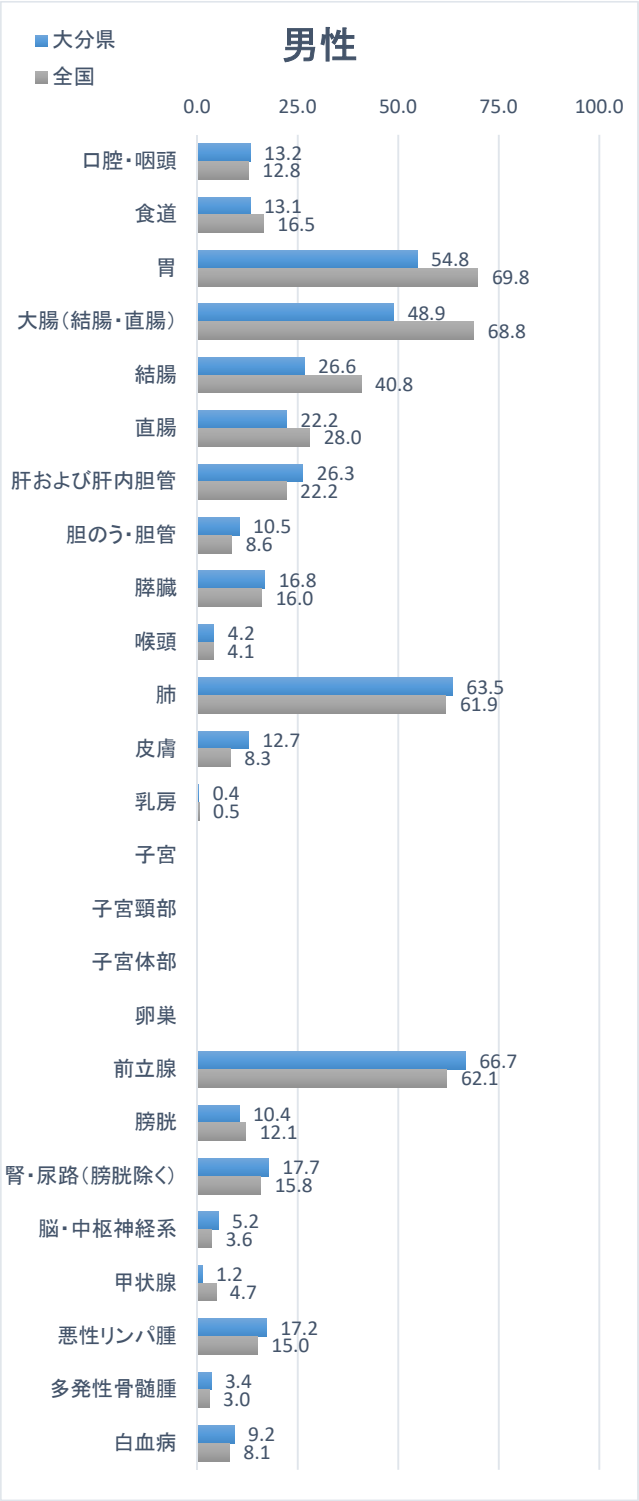


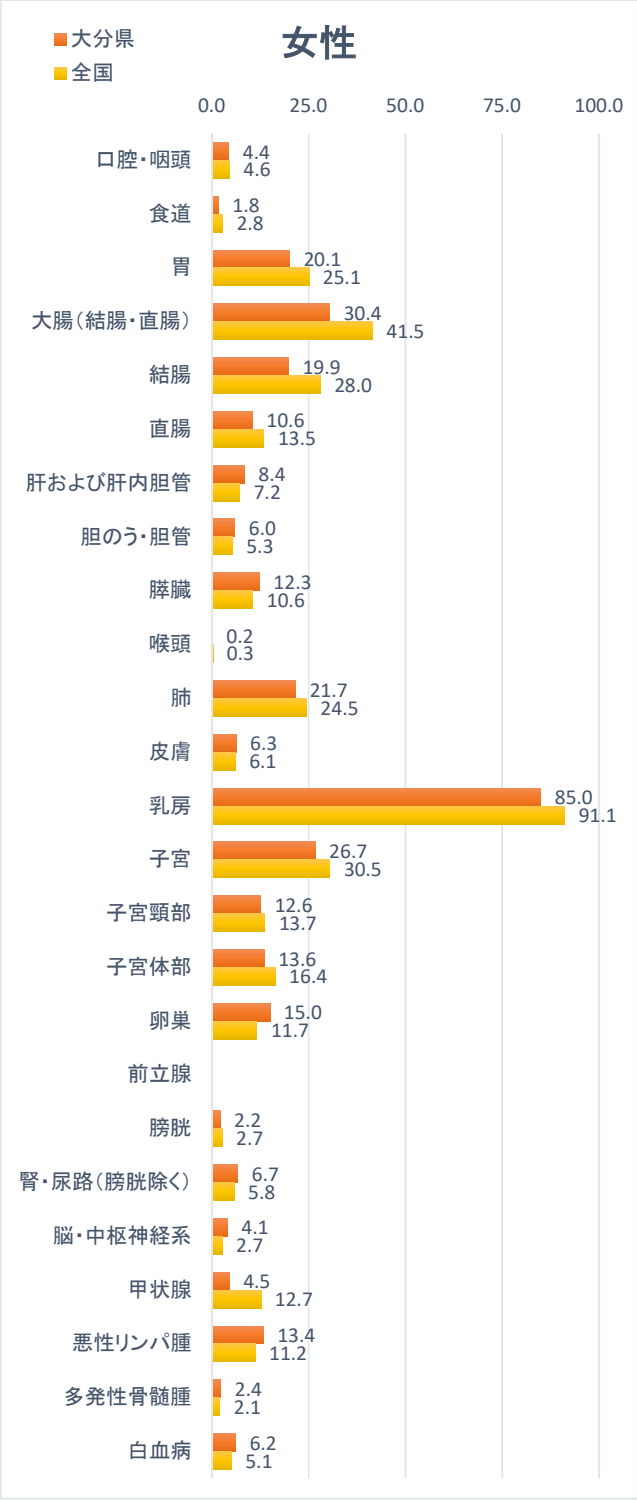
*男性の前立腺、女性の子宮頸・体・卵巣は割合から除く

(2)全国との比較

2015年の大分県の部位別がん罹患率を全国値と比較すると、男性では、前立腺、肺、肝および肝内胆管、皮膚、腎・尿路、悪性リンパ腫、白血病が全国値より高い傾向にあり、胃、大腸は全国値より低い傾向であ
女性では、罹患率の高い部位は大分県、全国ともに乳房であるが、大分県の罹患率は全国値よりも低い傾向である(2014年は全国値よりも高い)。また、胃、大腸、肺、子宮においても全国値よりも低い傾向である。全国値よりも高い傾向の部位は、肝および肝内胆管、膵臓、卵巣、腎・尿路、悪性リンパ腫、白血病である。

部位別がん年齢調整罹患率:人口10万対　*表1-A参照





*大分県、全国ともに上皮内がんを除く
*全国値は、全国がん罹患モニタリング集計2015年より引用

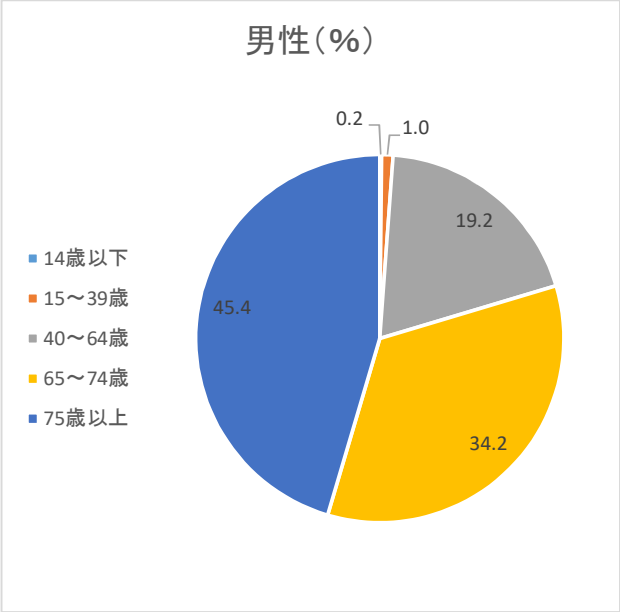
（3）年齢階級別から見たがんの罹患

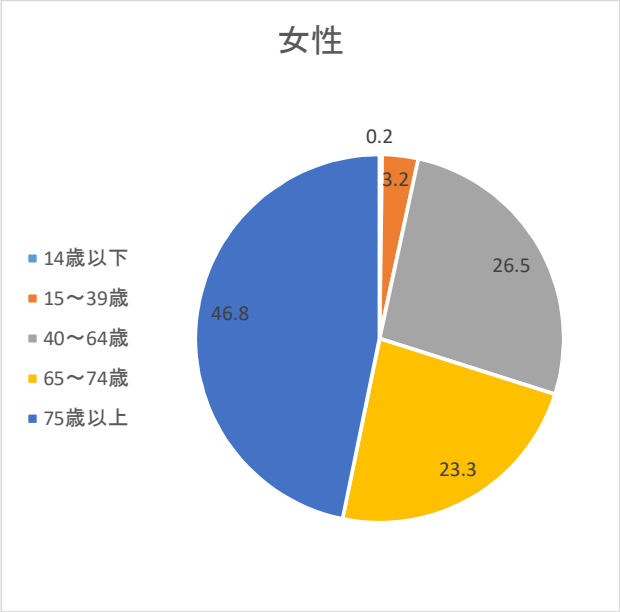
年齢別にみると、2015年に新たに診断されたがんは、75%以上が65歳以上である。特に男性では、65歳以上の割合が80%近くを占めている。働き盛りの年齢である40～64歳の階級では、男性が19.2%、女性が26.5%を占めている。女性の15～39歳、40～64歳の階級では、乳がん、子宮がん、卵巣がんの罹患割合が高いため、男性よりもがんの件数が多い。男女ともに、40歳以上から大幅に罹患件数は増加している。

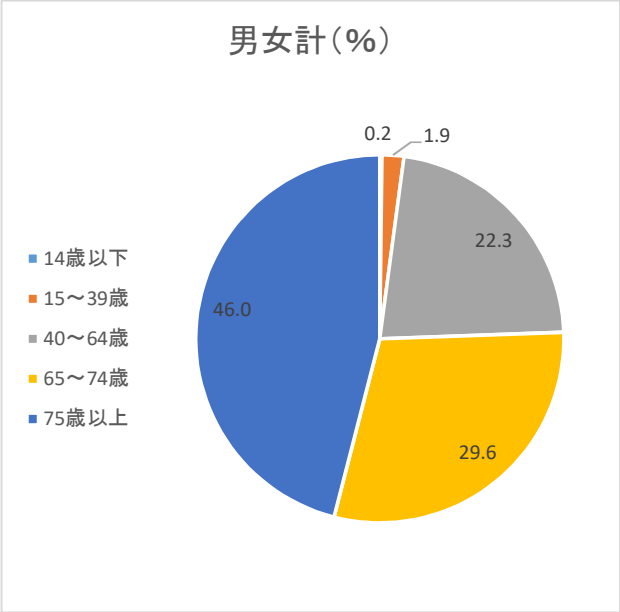
罹患率でみると、男女とも年齢が高くなるほど罹患率は上昇している。特に50歳以上から急激に上昇している。部位別に罹患率をみると、乳房では、30歳過ぎから上昇しており、60歳過ぎから徐々に低下している。子宮頸部では25歳過ぎから上昇しており、50歳すぎから徐々に低下している。子宮体部では、40歳すぎから上昇し、60歳過ぎから徐々に低下している。また、上皮内がんを含んだ子宮頸部では、10代から上昇している。

年齢別内訳（%）　*表2-A参照

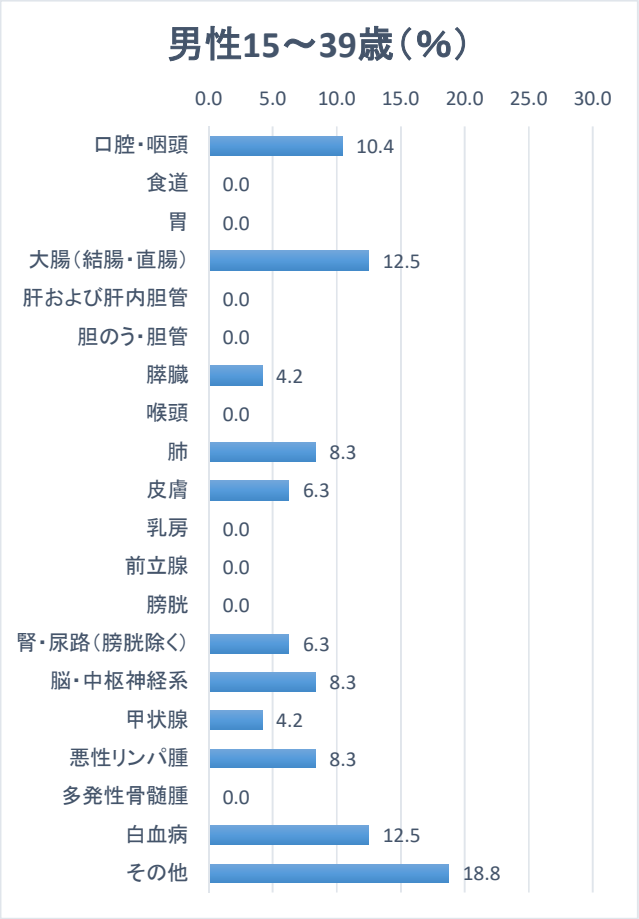
	男性（件）	女性（件）	全体(件)
14歳以下	8	8	16
15～39歳	48	114	162
40～64歳	931	957	1,888
65～74歳	1,658	842	2,500
75歳以上	2,202	1,688	3,890
合計	4,847	3,609	8,456

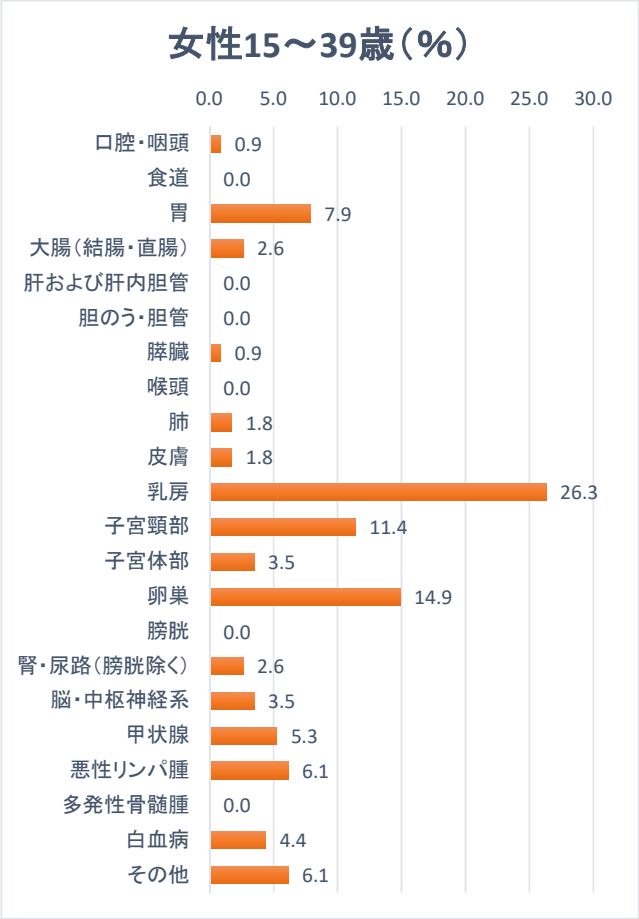


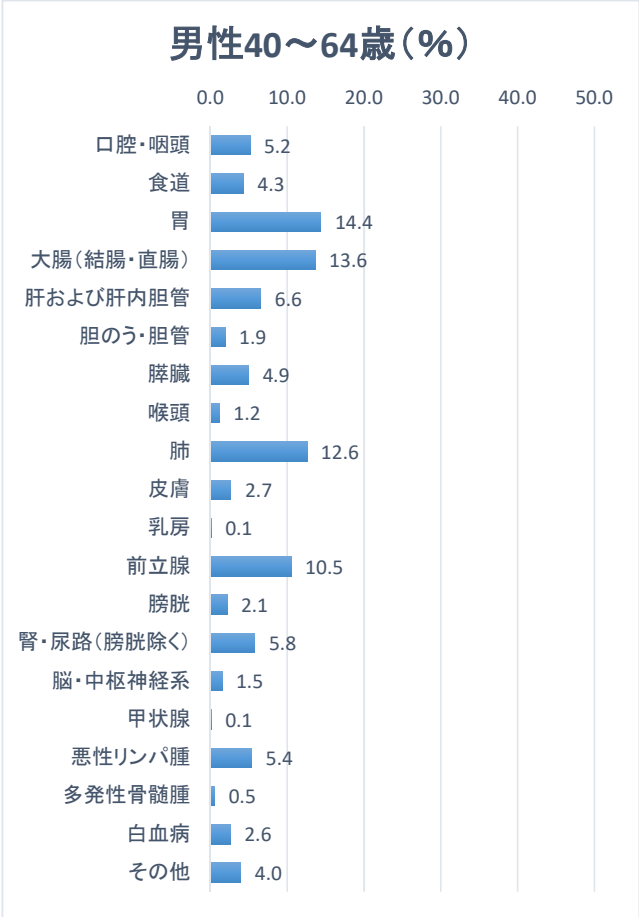


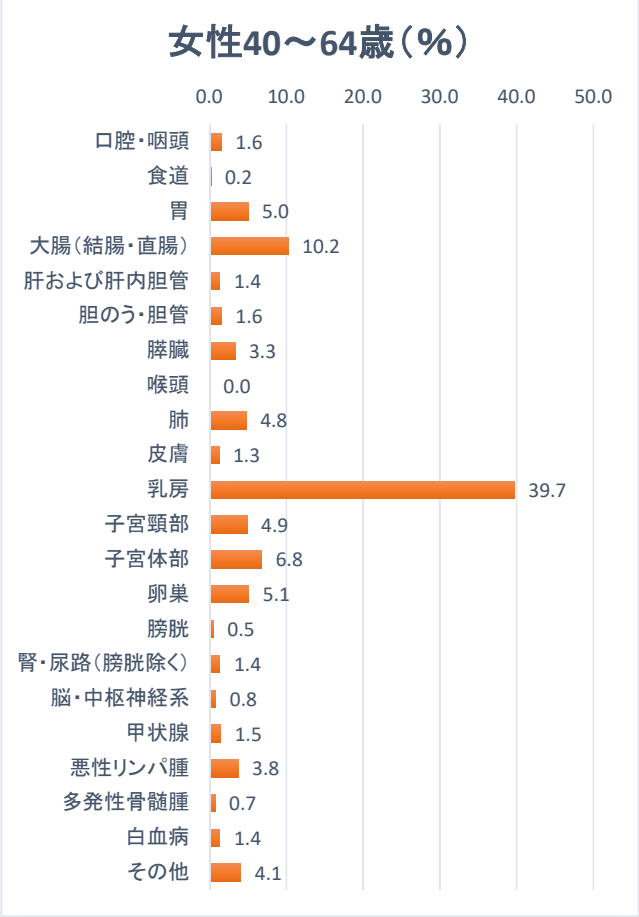


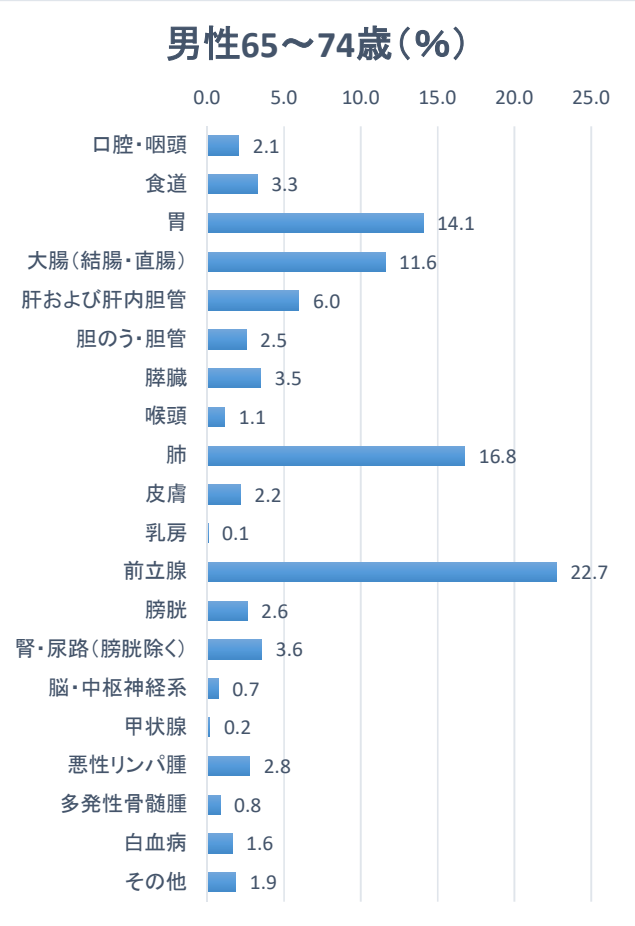
年齢別部位別内訳　*表2-A参照

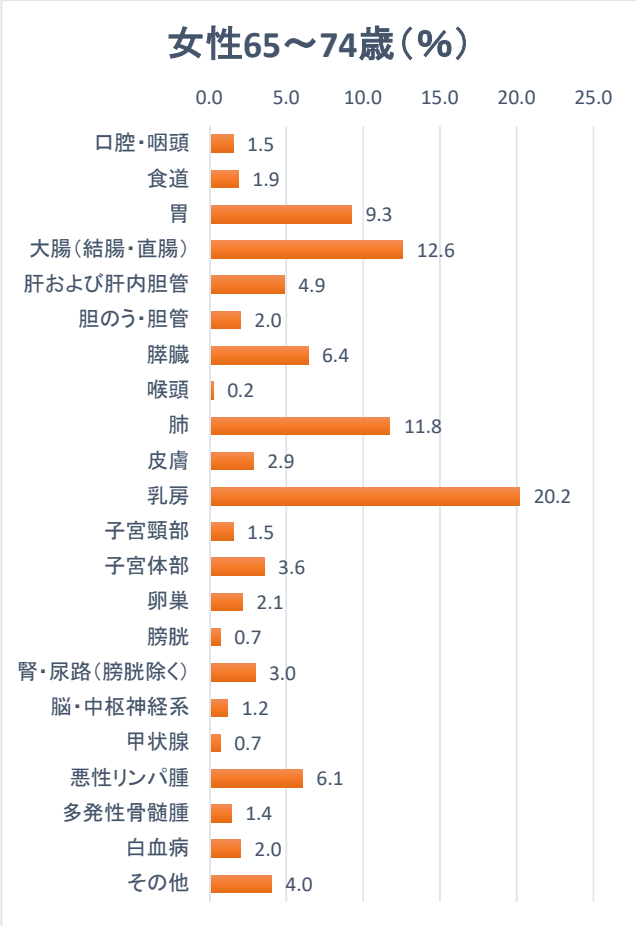


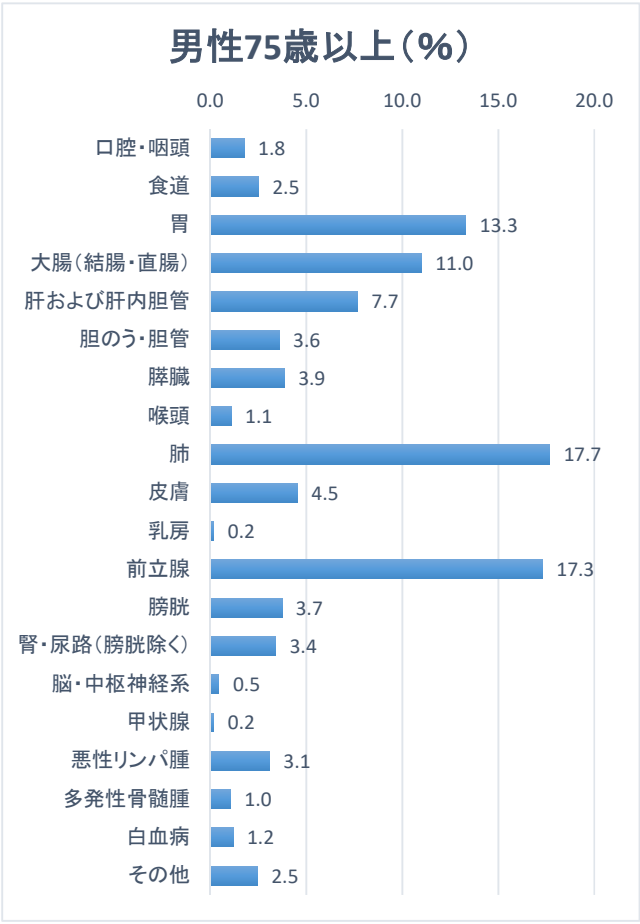


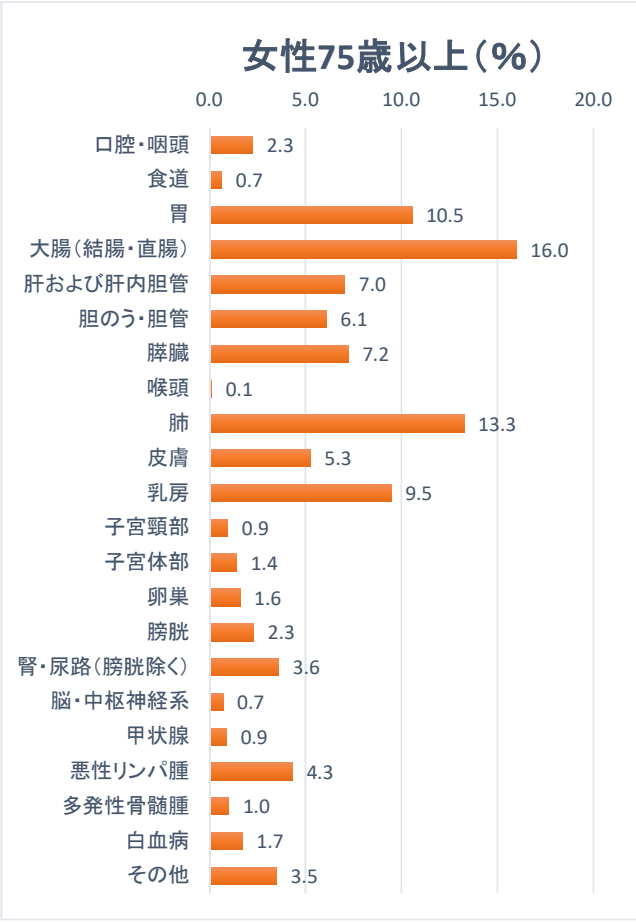




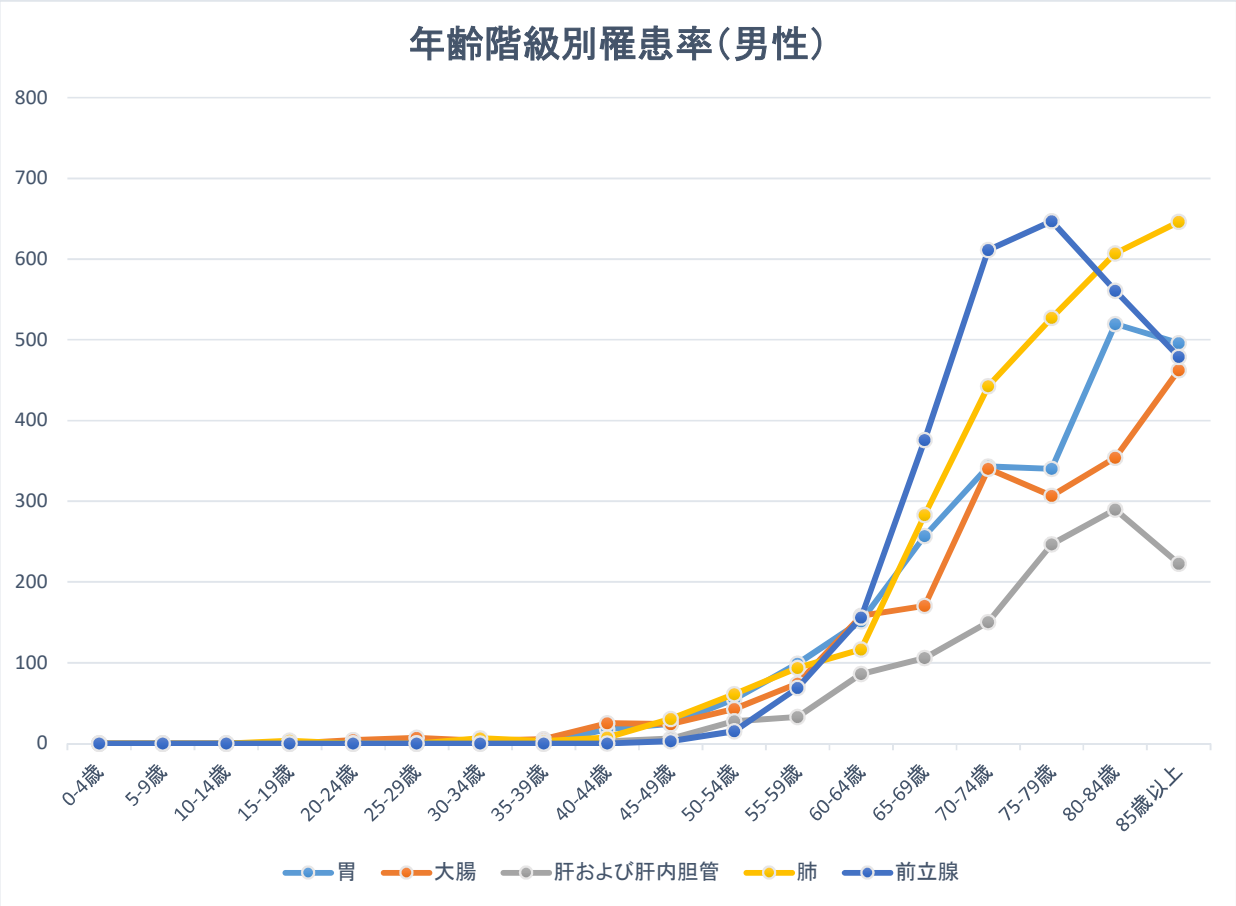

男性65～74歳（%）
0.0
5.0
10.0
15.0
20.0
25.0
口腔・咽頭 2.1
食道 3.3
胃 14.1
大腸（結腸・直腸） 11.6
肝および肝内胆管 6.0
胆のう・胆管 2.5
膵臓 3.5
喉頭 1.1
肺 16.8
皮膚 2.2
乳房 0.1
前立腺 22.7
膀胱 2.6
腎・尿路（膀胱除く） 3.6
脳・中枢神経系 0.7
甲状腺 0.2
悪性リンパ腫 2.8
多発性骨髄腫 0.8
白血病 1.6
その他 1.9

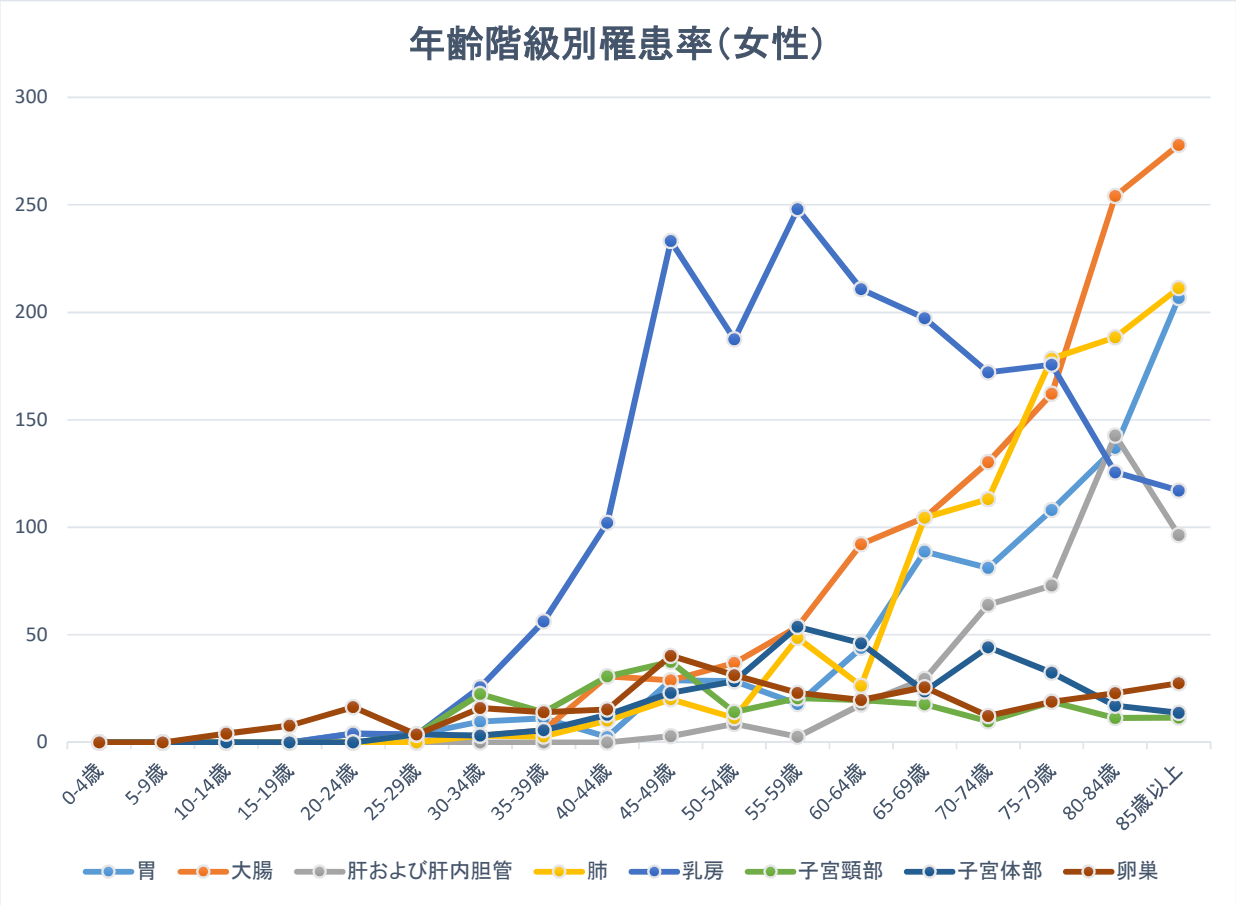

女性65～74歳（%）
0.0
5.0
10.0
15.0
20.0
25.0
口腔・咽頭 1.5
食道 1.9
胃 9.3
大腸（結腸・直腸） 12.6
肝および肝内胆管 4.9
胆のう・胆管 2.0
膵臓 6.4
喉頭 0.2
肺 11.8
皮膚 2.9
乳房 20.2
子宮頸部 1.5
子宮体部 3.6
卵巣 2.1
膀胱 0.7
腎・尿路（膀胱除く） 3.0
脳・中枢神経系 1.2
甲状腺 0.7
悪性リンパ腫 6.1
多発性骨髄腫 1.4
白血病 2.0
その他 4.0


男性75歳以上（%）
0.0
5.0
10.0
15.0
20.0
口腔・咽頭 1.8
食道 2.5
胃 13.3
大腸（結腸・直腸） 11.0
肝および肝内胆管 7.7
胆のう・胆管 3.6
膵臓 3.9
喉頭 1.1
肺 17.7
皮膚 4.5
乳房 0.2
前立腺 17.3
膀胱 3.7
腎・尿路（膀胱除く） 3.4
脳・中枢神経系 0.5
甲状腺 0.2
悪性リンパ腫 3.1
多発性骨髄腫 1.0
白血病 1.2
その他 2.5

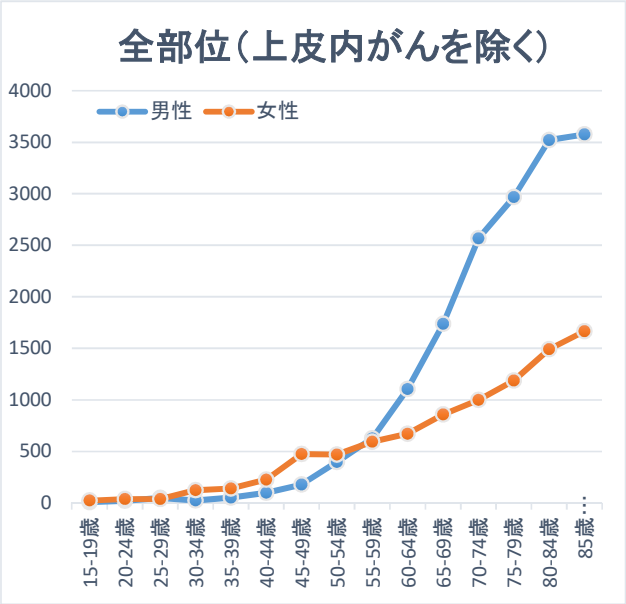

女性75歳以上（%）
0.0
5.0
10.0
15.0
20.0
口腔・咽頭 2.3
食道 0.7
胃 10.5
大腸（結腸・直腸） 16.0
肝および肝内胆管 7.0
胆のう・胆管 6.1
膵臓 7.2
喉頭 0.1
肺 13.3
皮膚 5.3
乳房 9.5
子宮頸部 0.9
子宮体部 1.4
卵巣 1.6
膀胱 2.3
腎・尿路（膀胱除く） 3.6
脳・中枢神経系 0.7
甲状腺 0.9
悪性リンパ腫 4.3
多発性骨髄腫 1.0
白血病 1.7
その他 3.5

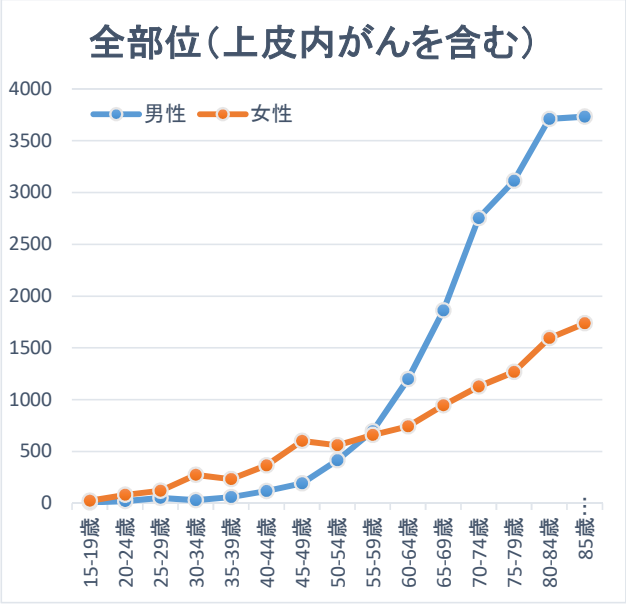
男女別年齢階級別罹患率：人口10万対　*表3-A参照

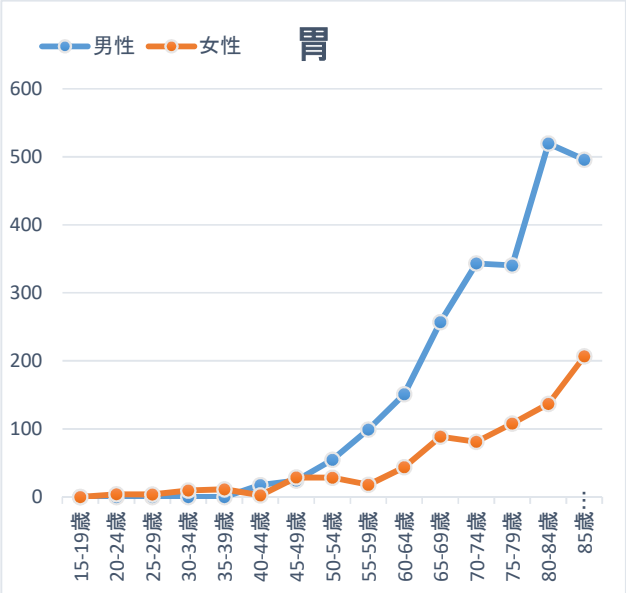


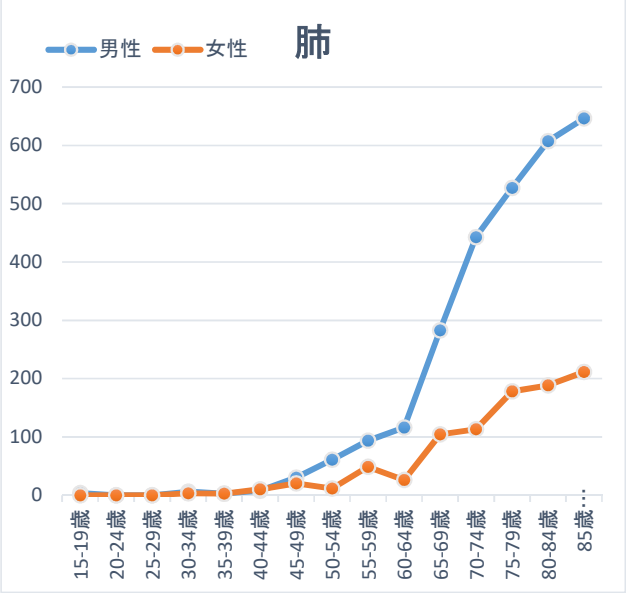


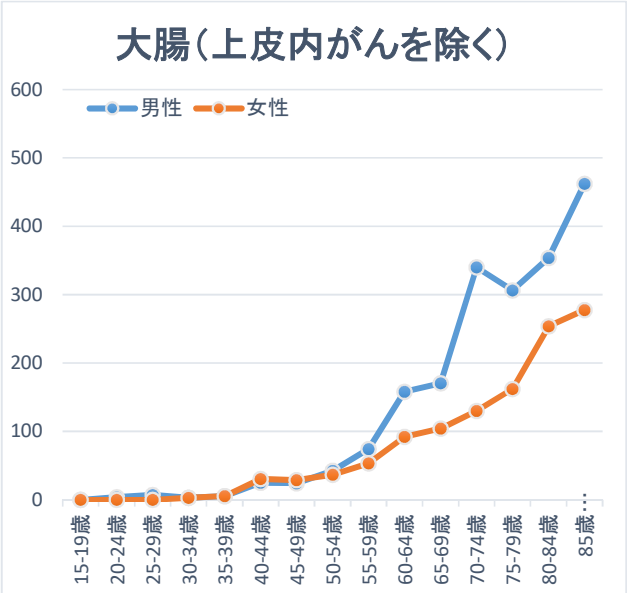
部位別年齢階級別罹患率：人口10万対　*表3-A、表3-B参照

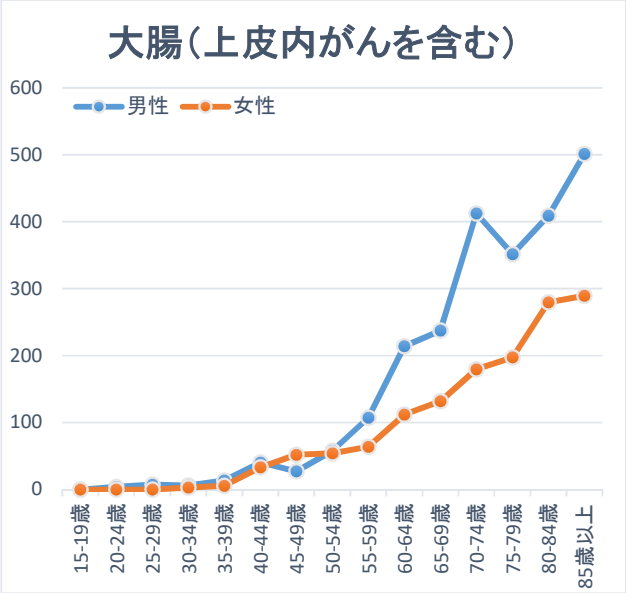


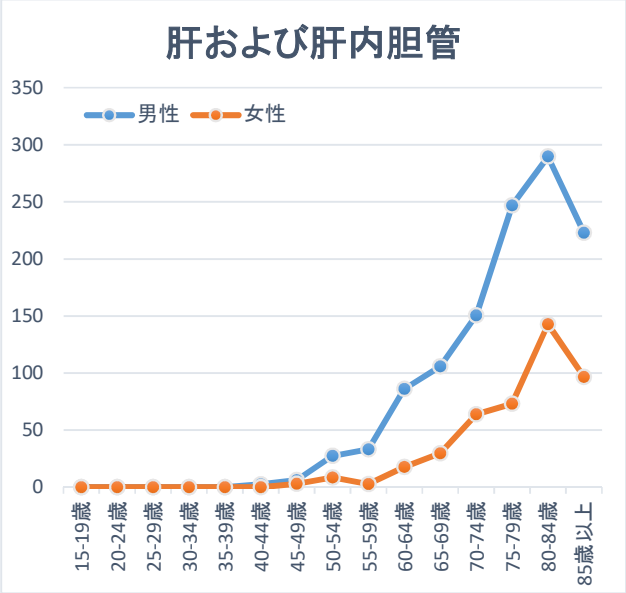


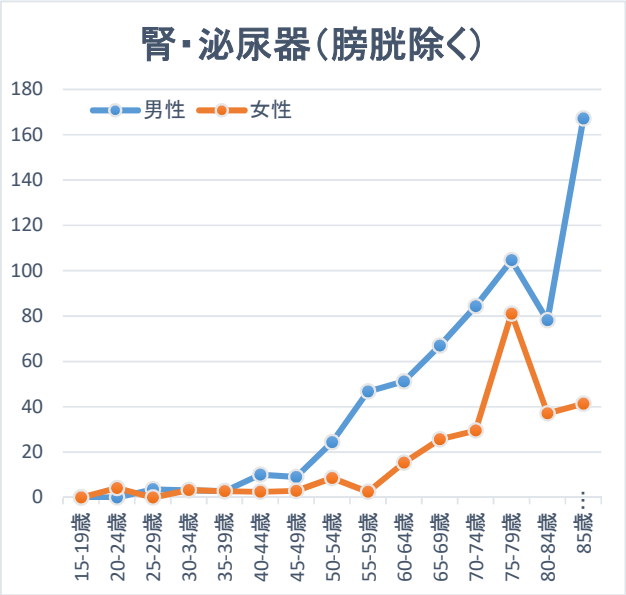


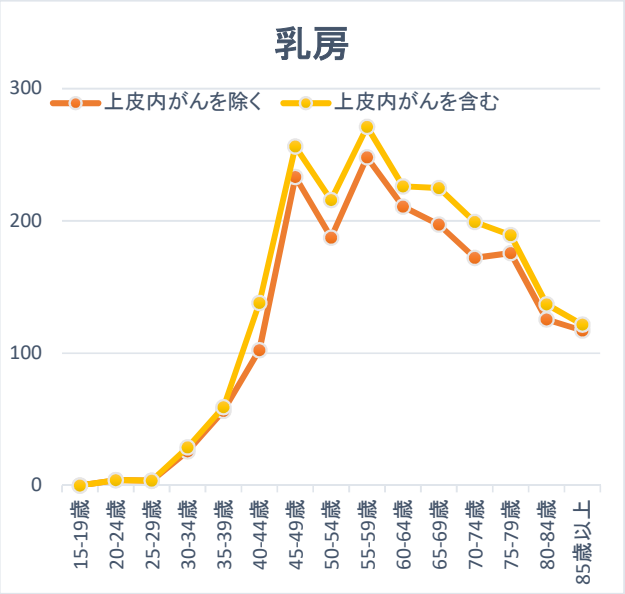


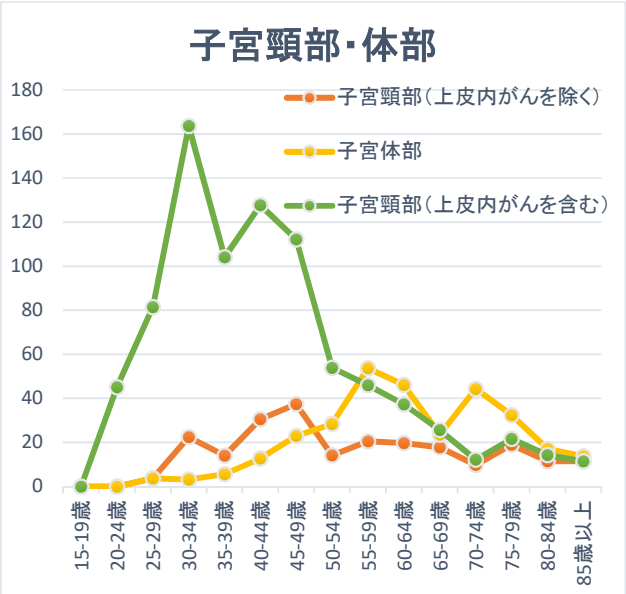


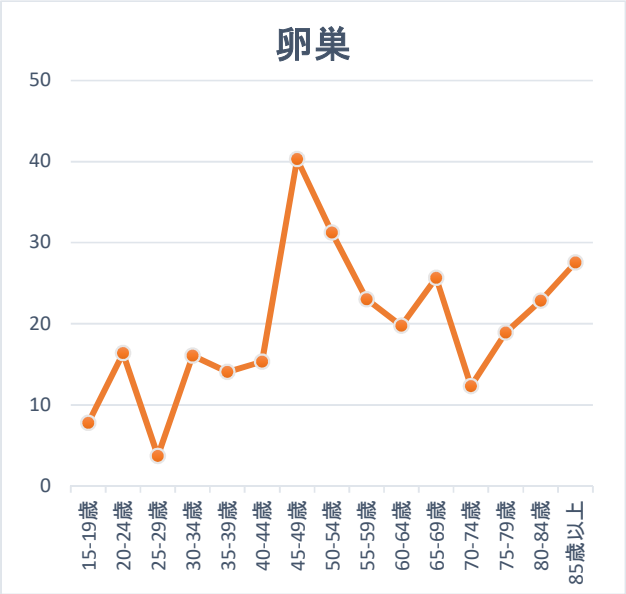


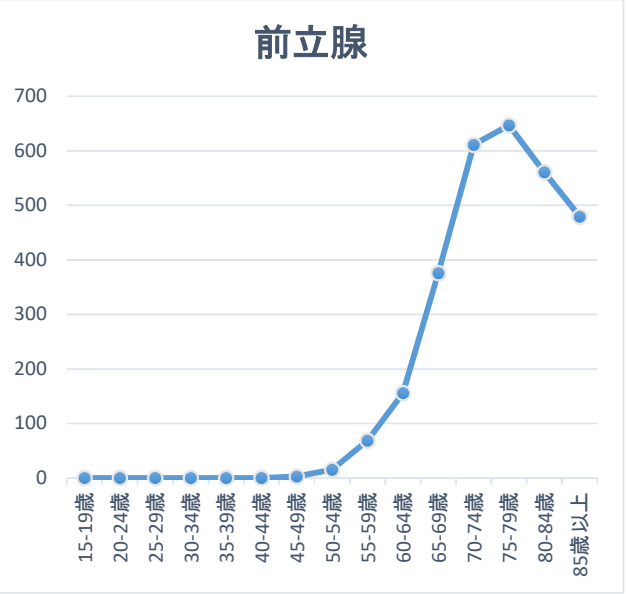

肝および肝内胆管
男性
女性
350
300
250
200
150
100
50
0
15-19歳
20-24歳
25-29歳
30-34歳
35-39歳
40-44歳
45-49歳
50-54歳
55-59歳
60-64歳
65-69歳
70-74歳
75-79歳
80-84歳
85歳以上


腎・泌尿器（膀胱除く）
男性
女性
180
160
140
120
100
80
60
40
20
0
15-19歳
20-24歳
25-29歳
30-34歳
35-39歳
40-44歳
45-49歳
50-54歳
55-59歳
60-64歳
65-69歳
70-74歳
75-79歳
80-84歳
85歳…


乳房
上皮内がんを除く
上皮内がんを含む
300
200
100
0
15-19歳
20-24歳
25-29歳
30-34歳
35-39歳
40-44歳
45-49歳
50-54歳
55-59歳
60-64歳
65-69歳
70-74歳
75-79歳
80-84歳
85歳以上


子宮頸部・体部
子宮頸部（上皮内がんを除く）
子宮体部
子宮頸部（上皮内がんを含む）
180
160
140
120
100
80
60
40
20
0
15-19歳
20-24歳
25-29歳
30-34歳
35-39歳
40-44歳
45-49歳
50-54歳
55-59歳
60-64歳
65-69歳
70-74歳
75-79歳
80-84歳
85歳以上

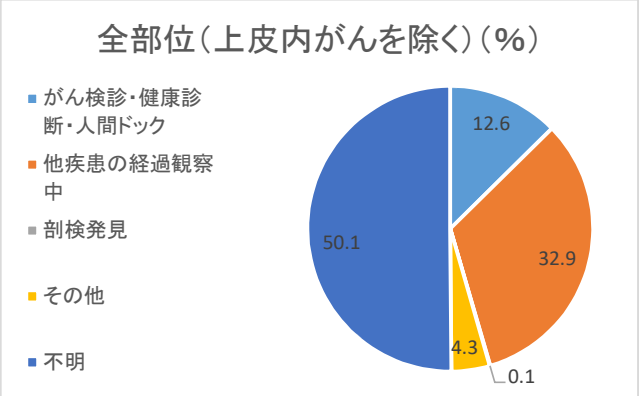

卵巣
50
40
30
20
10
0
15-19歳
20-24歳
25-29歳
30-34歳
35-39歳
40-44歳
45-49歳
50-54歳
55-59歳
60-64歳
65-69歳
70-74歳
75-79歳
80-84歳
85歳以上

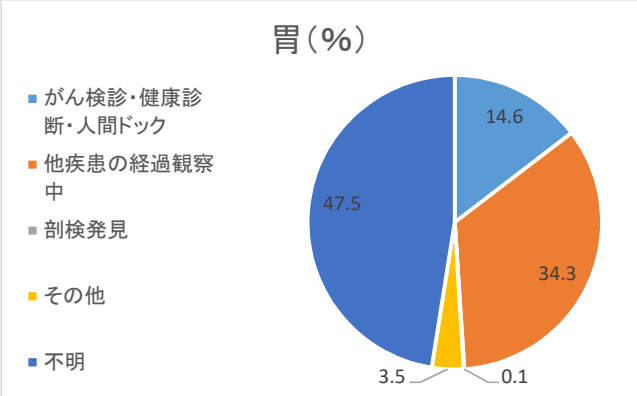

前立腺
700
600
500
400
300
200
100
0
15-19歳
20-24歳
25-29歳
30-34歳
35-39歳
40-44歳
45-49歳
50-54歳
55-59歳
60-64歳
65-69歳
70-74歳
75-79歳
80-84歳
85歳以上

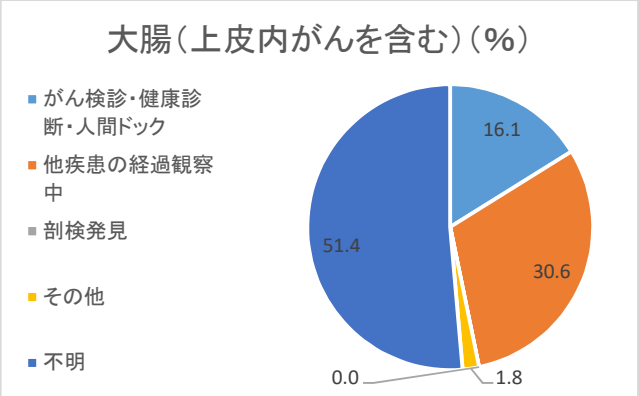
(4)発見経緯からみたがんの罹患

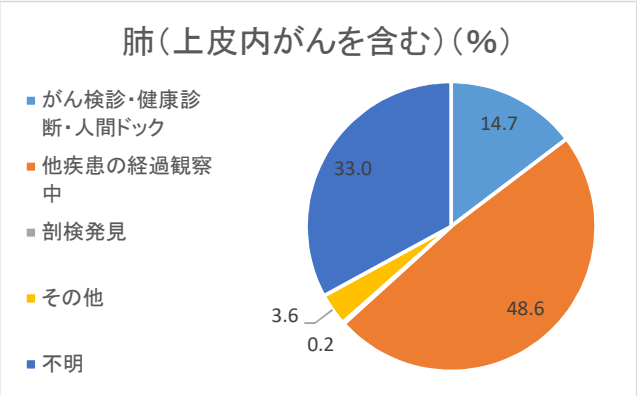
全部位でみると、他疾患の経過観察中にがんが発見された症例が多い(32.9%)。住民検診で実施されている胃、大腸、肺、乳房、子宮頸部において、がん検診・人間ドックが発見経緯となった症例はそれぞれ胃(14.6%)、大腸(16.1%)、肺(14.7%)、乳房(32.5%)、子宮頸部(40.6%)、であり、乳房、子宮頸部において高かった。また、前立腺においてもがん検診・人間ドックが発見経緯となった症例の割合が高い(27.5%)。肝および肝内胆管では、他疾患の経過観察中での発見が60%以上である。

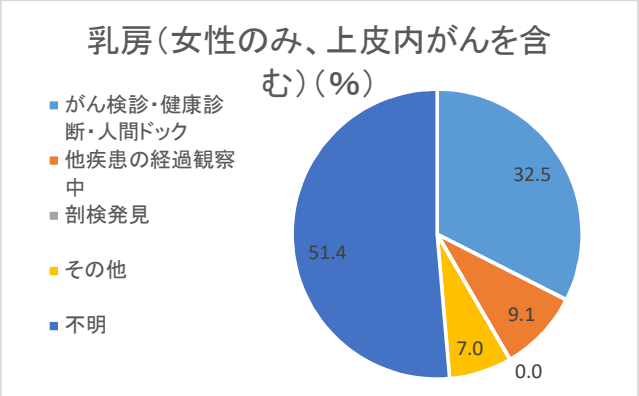
*表4-A、表4-B参照

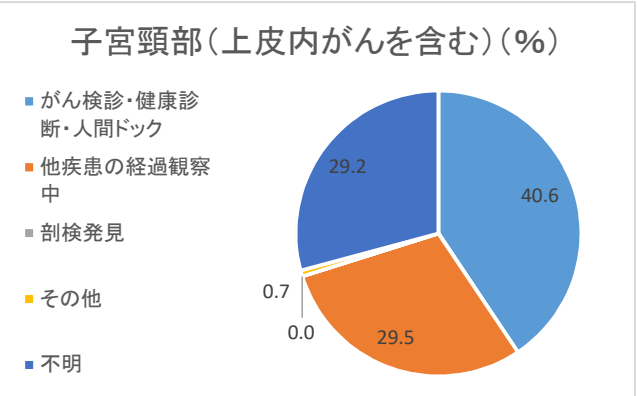


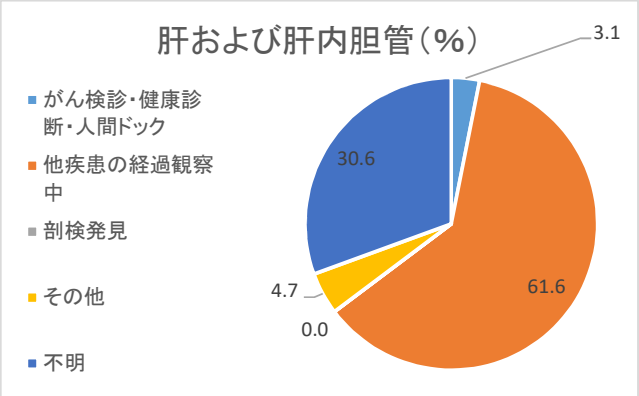


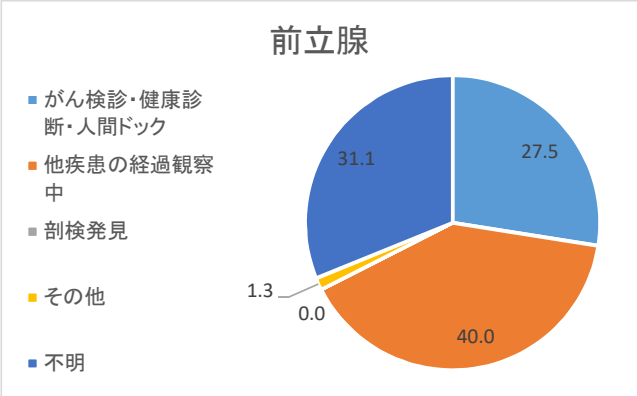










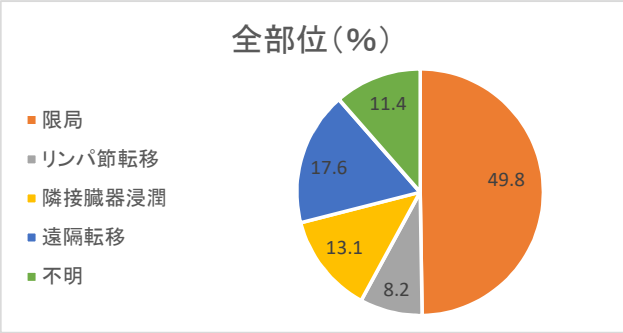


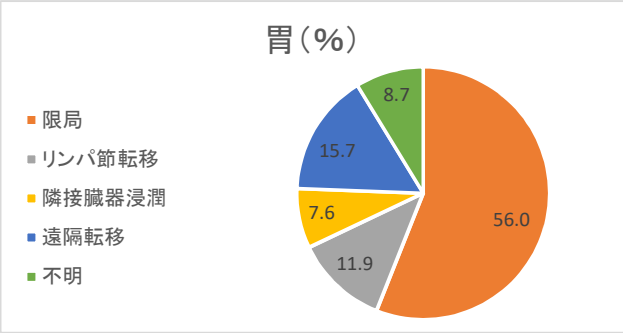
*その他には自覚症状による受診を含む

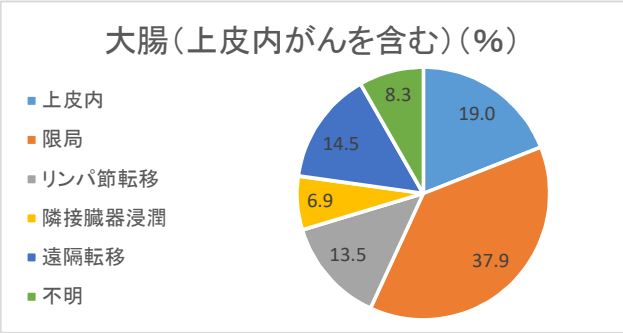
(5)臨床進行度から見たがんの罹患

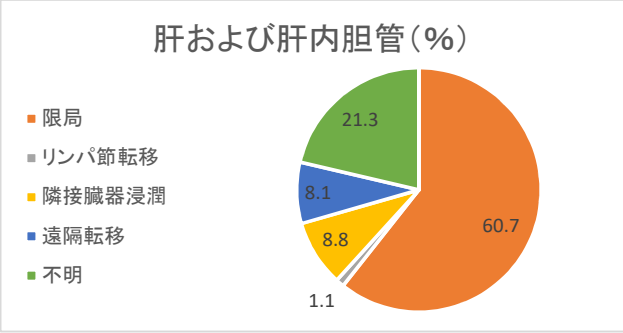
全部位でがん発見時の進展度をみると、限局の割合が高い（49.8%）。部位別にみると、胃、大腸、肝および肝内胆管、乳房、子宮頸部、前立腺などでは、発見時の進展度が上皮内・限局である割合が高い。肺では、発見時の進展度が限局であった割合と遠隔転移があった割合が両方高いことが特徴である。膵臓では、発見時の進展度が遠隔転移であった割合が45%以上であった。

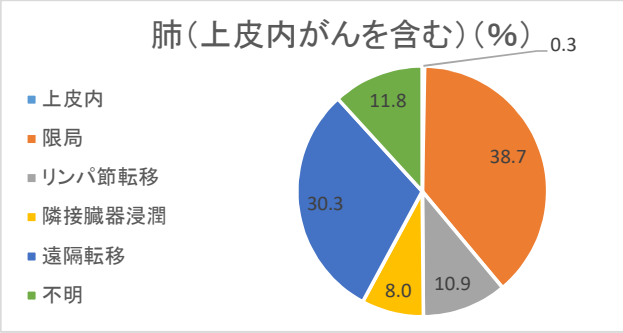
*表5-1A.、表5-1B参照

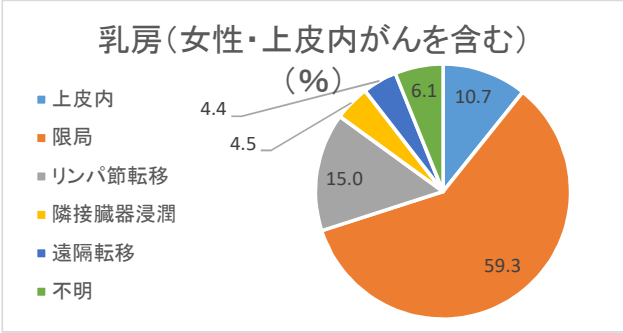


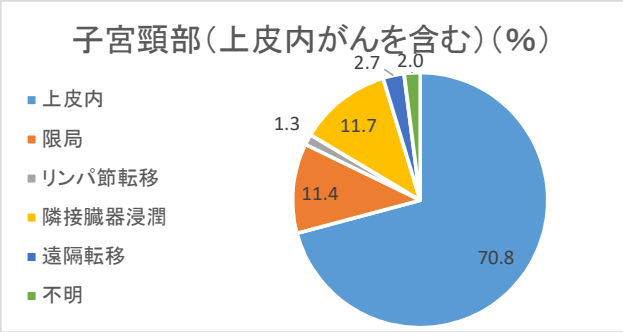


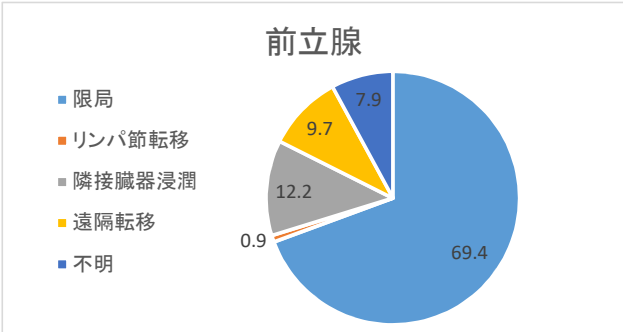


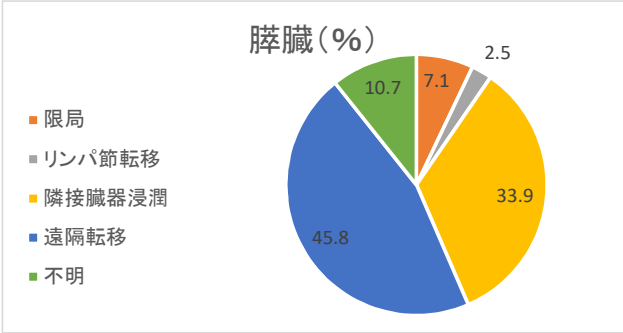








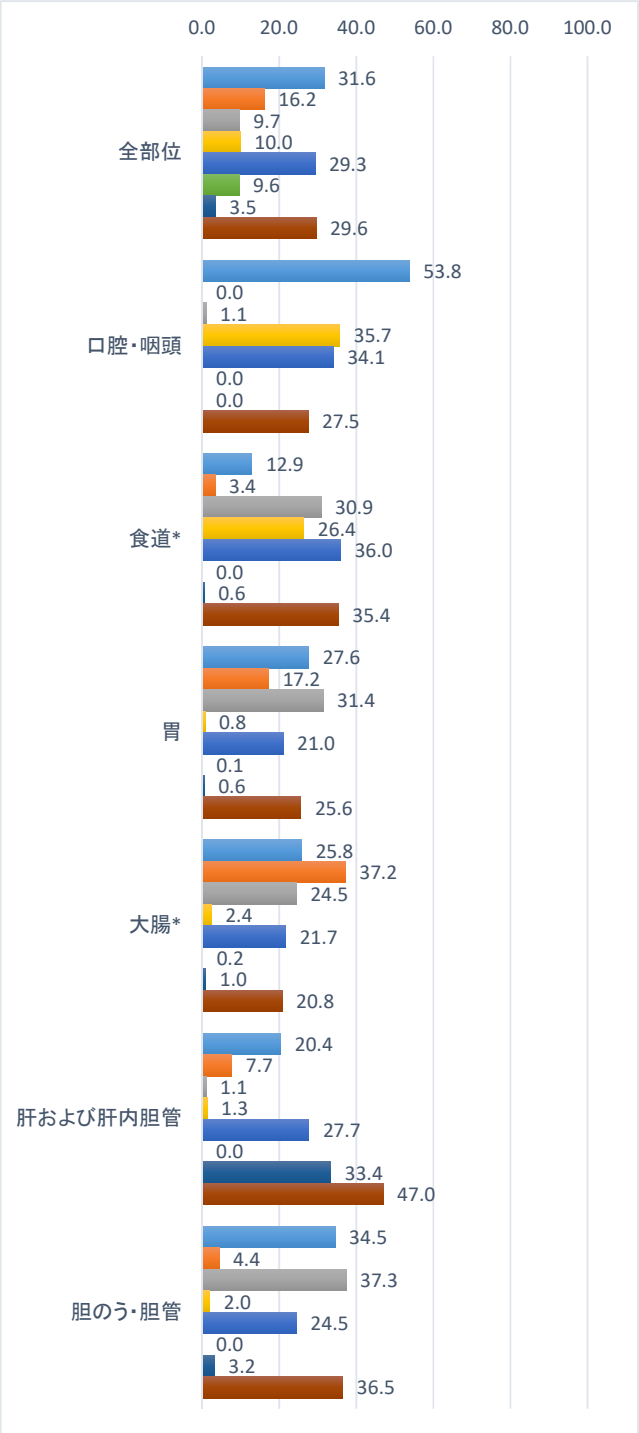


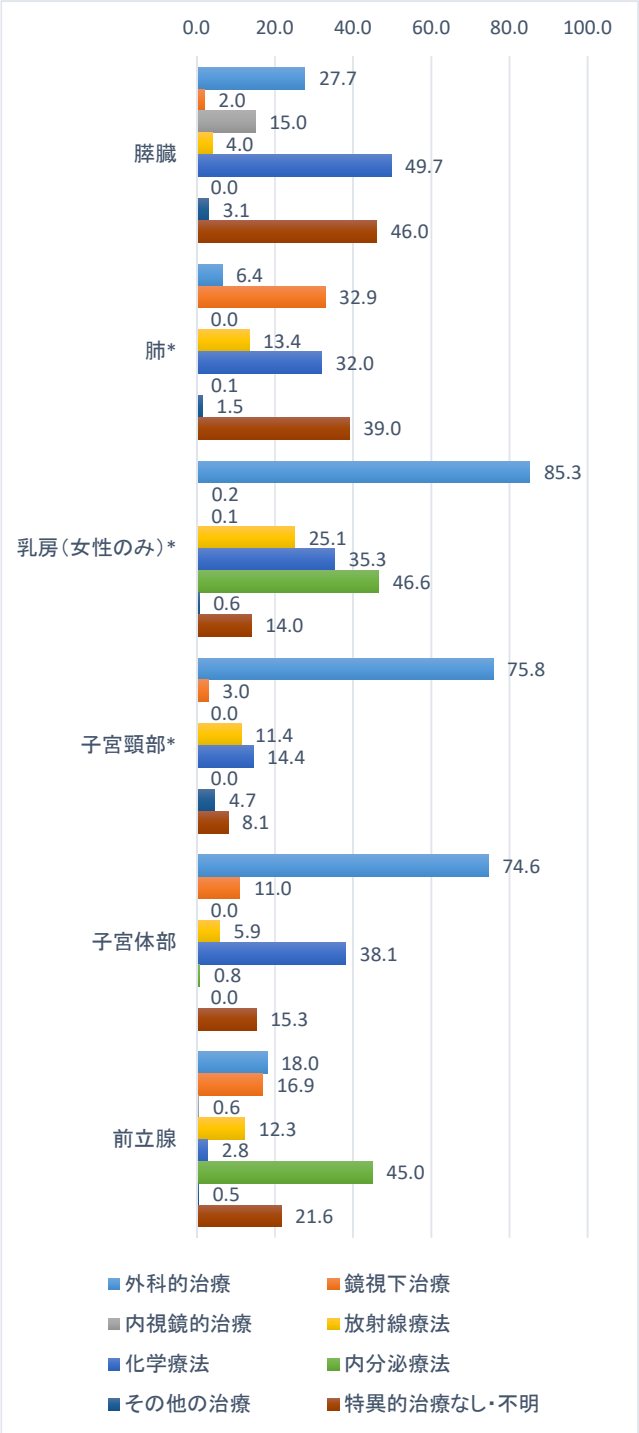


(6)初回治療の方法

初回治療の方法は、複数回答のため外科的治療、放射線治療、化学療法、内分泌療法を組み合わせていることが考えられる。届出患者のみの集計のため偏りを否定できないが、初回治療の部位別の傾向が観察される。外科的治療の割合が高い部位は、口腔・咽頭、乳房、子宮頸部、子宮体部である。食道、胃、大腸などの消化管では、外科的治療、鏡視下治療、内視鏡的治療のいずれかで治療している割合が高い。乳房、前立腺では、内分泌療法の割合も高い。

*表6-A、表6-B参照



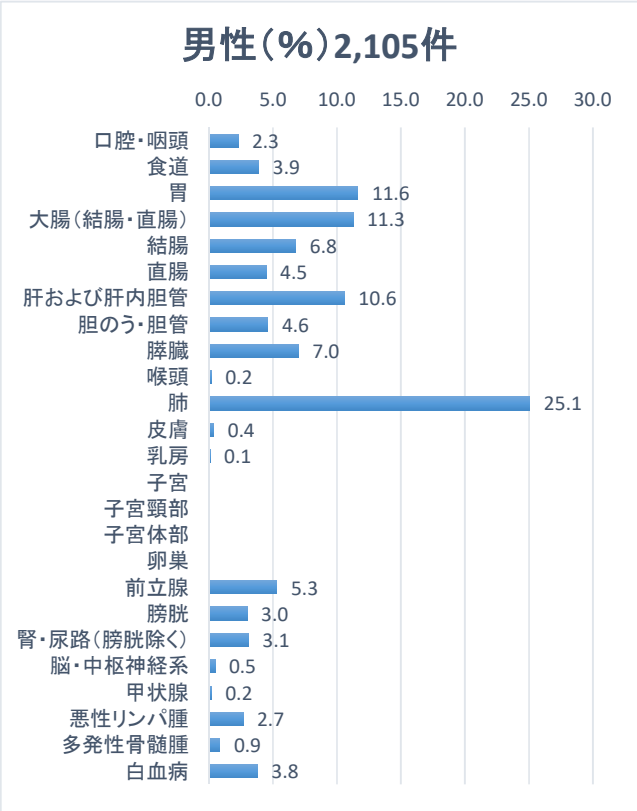


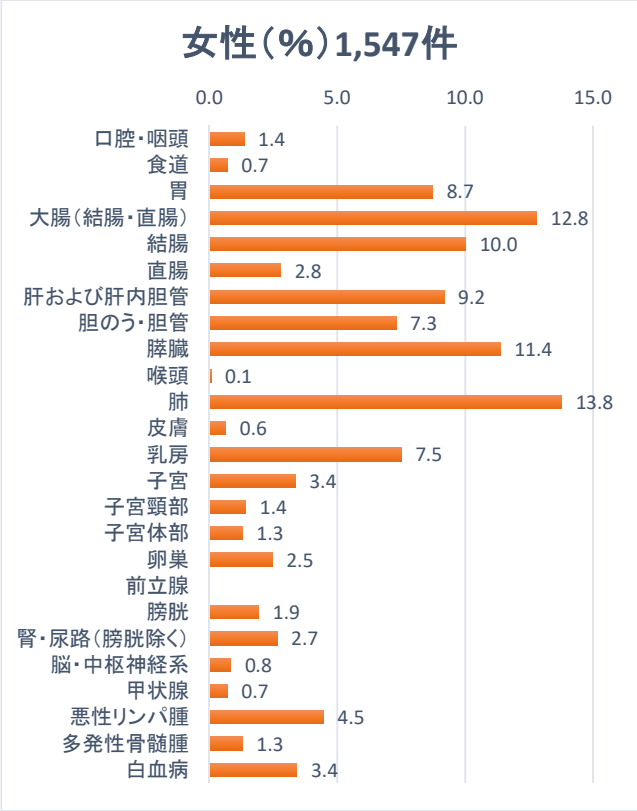
*の部位は、上皮内がんを含む

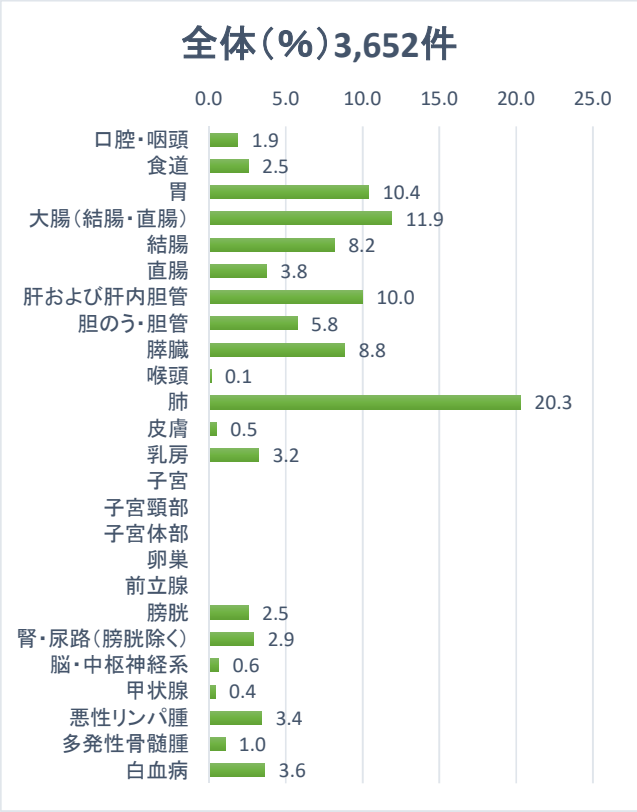
大分県のがん死亡の概要
（1）全体の概要

2015年大分県において、男性2,105人、女性1,547人、合計3,652人の方ががんを原因として死亡された。部位別にみると、男性で最も多い部位は肺（25.1%）で、胃（11.6%）、大腸（11.3%）と続く。女性で最も多い部位は肺（13.8%）で、大腸（12.8%）、膵臓（11.4%）と続く。全体で最も多い部位は肺（20.3%）で、大腸（11.9%）、

部位別がん死亡割合　*表9参照





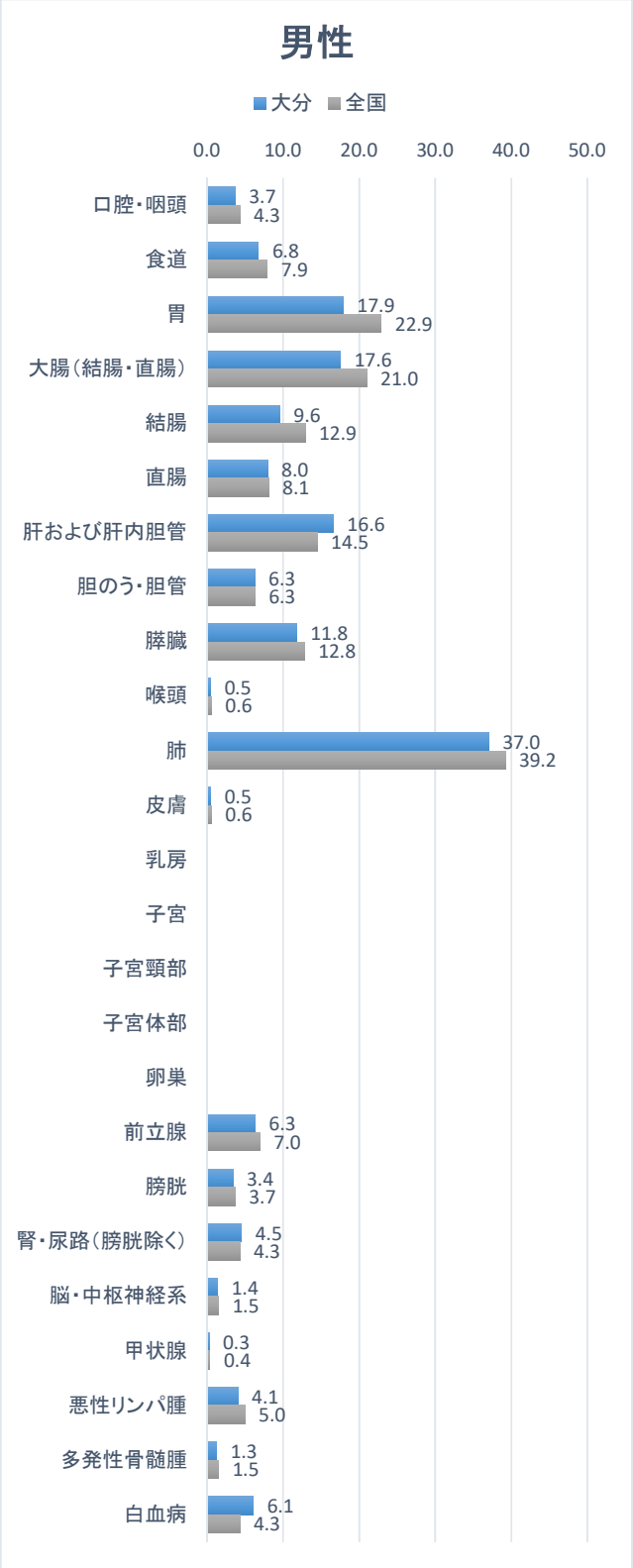


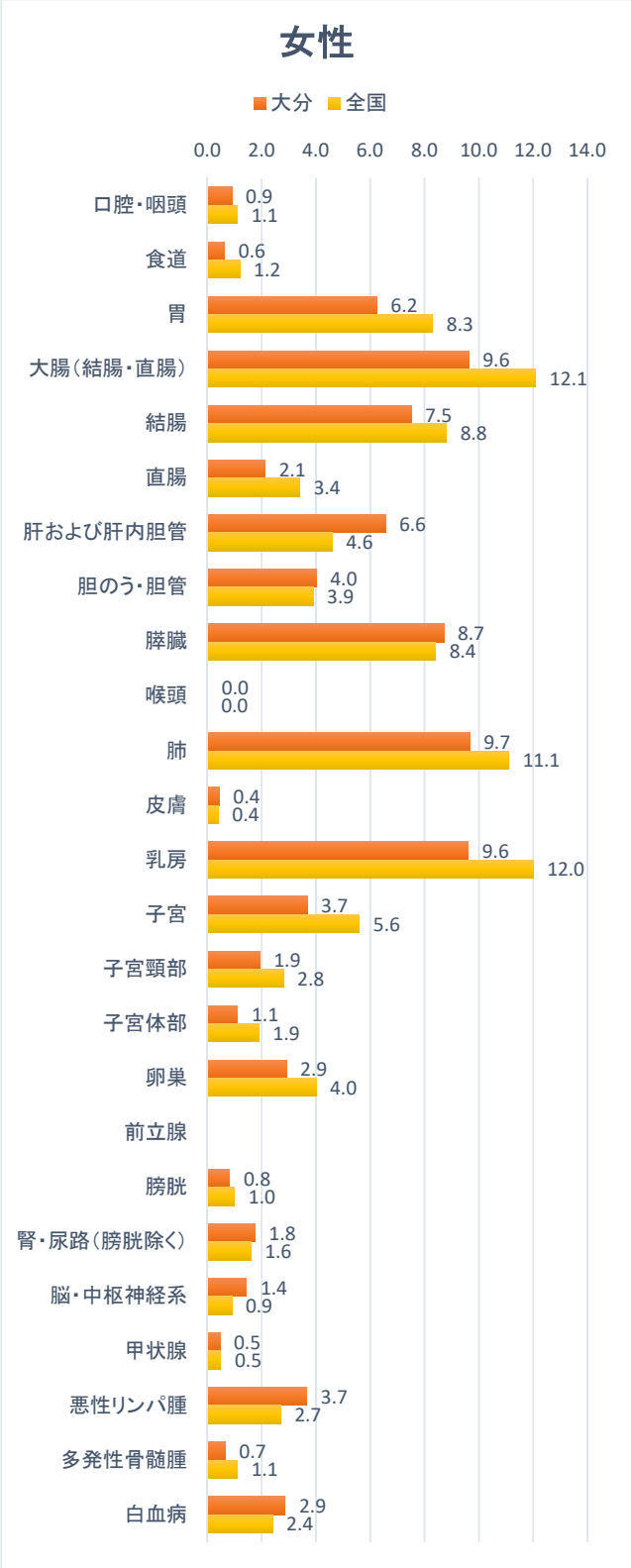
*男性の前立腺、女性の子宮頸・体・卵巣は割合から除く

（2）全国との比較

2015年の大分県の部位別がん死亡率を全国値と比較すると、男女とも胃、大腸、肺では全国値より低い傾向がみられた。女性の乳房、子宮においても全国値より低い死亡率であった。男女ともに全国値より高い死亡率の部位は、肝および肝内胆管、白血病である。また、女性の悪性リンパ腫も全国値より高い死亡率であ

部位別年齢調整死亡率：人口10万対　*表9参照





*全国値は、国立がん研究センターがん情報サービス「人口動態統計によるがん死亡とデータ」より引用した2015年死亡率

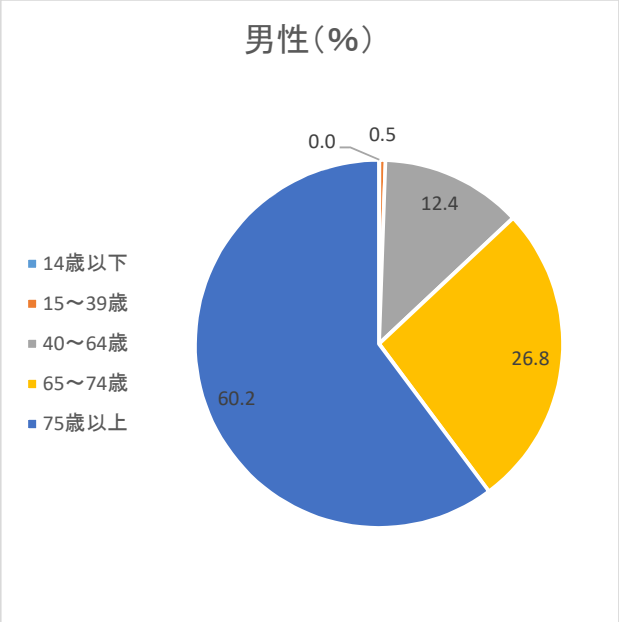
（3）年齢階級別に見たがんの死亡

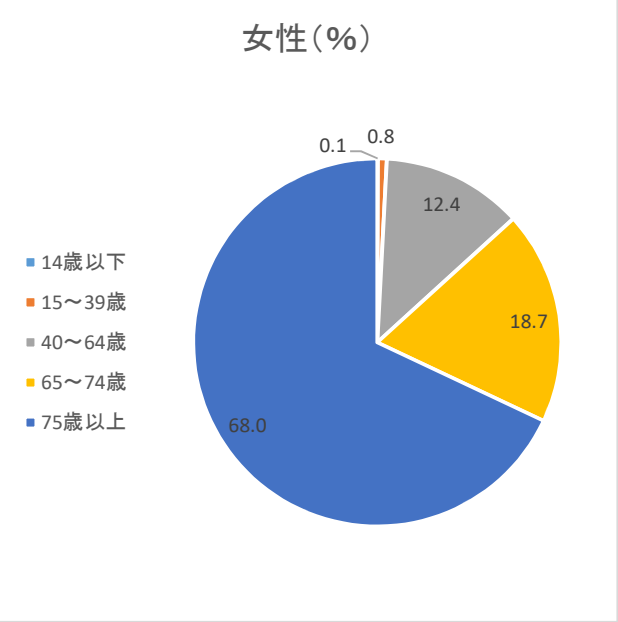
2015年にがんを原因として死亡された方を年齢別にみると、男女ともに85%以上が65歳以上である。あらゆる部位のがんは、年齢が高くなるほどかかりやすくなるため、がんによる死亡者数も高齢者が多い。

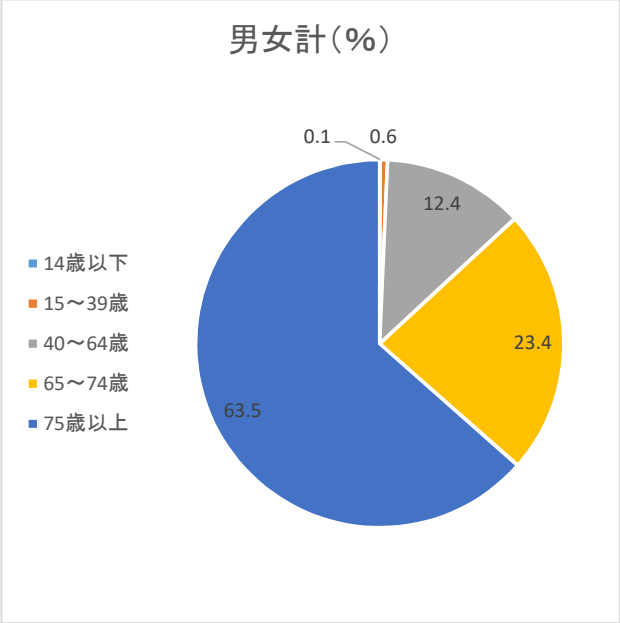
部位別に死亡率をみると、ほとんどの部位で60歳くらいから死亡率が上昇しているが、女性のがんである乳房、子宮頸部では、比較的年齢が低い30歳くらいから死亡率が上昇している。また、子宮体部では、子宮頸部の死亡率が低下した50歳くらいから死亡率が上昇している。男性の肝および肝内胆管、膵臓では、働き盛りの年齢である50歳くらいから死亡率が上昇している。

年齢別死亡内訳（%）　*表10参照

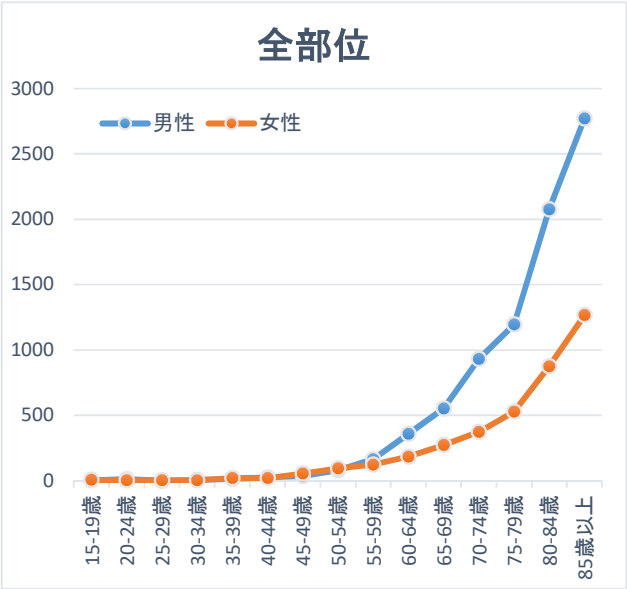
	男性（件）	女性（件）	全体（件）
14歳以下	1	1	2
15～39歳	11	12	23
40～64歳	262	192	454
65～74歳	564	290	854
75歳以上	1,267	1,052	2,319
合計	2,105	1,547	3,652

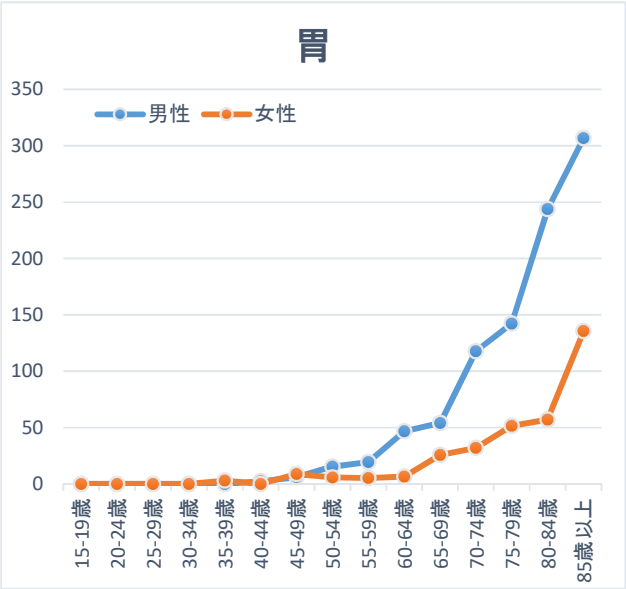


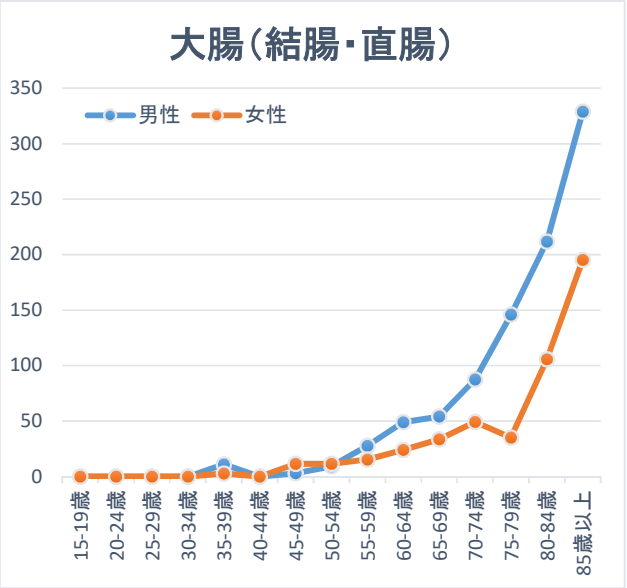


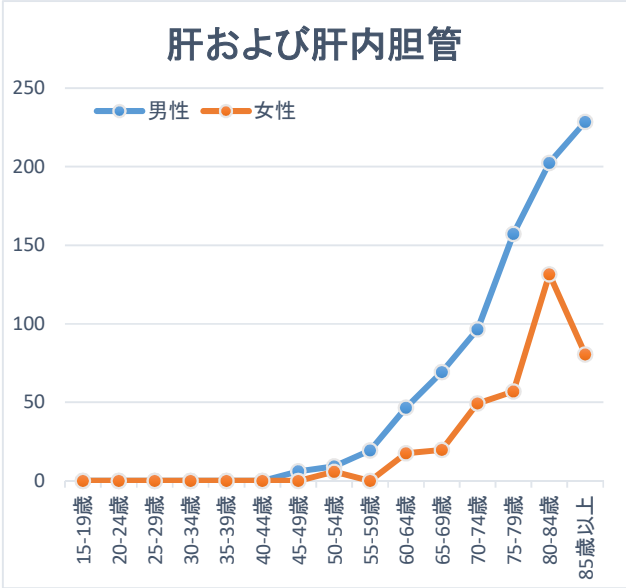


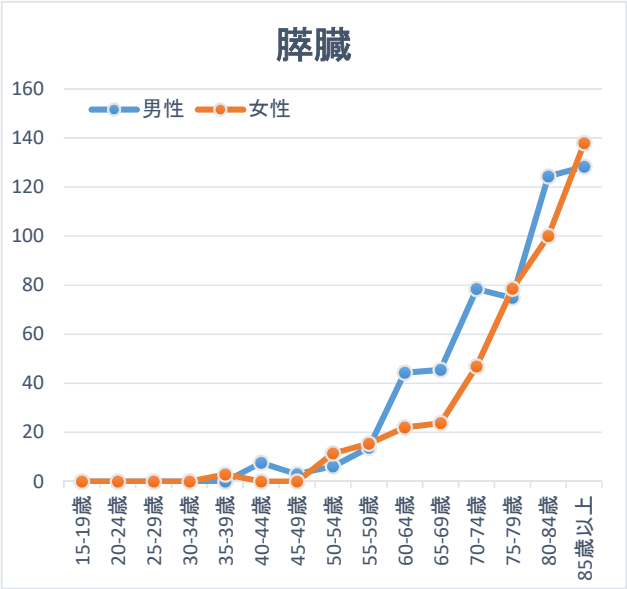
部位別年齢階級別死亡率：人口10万対　*表11参照

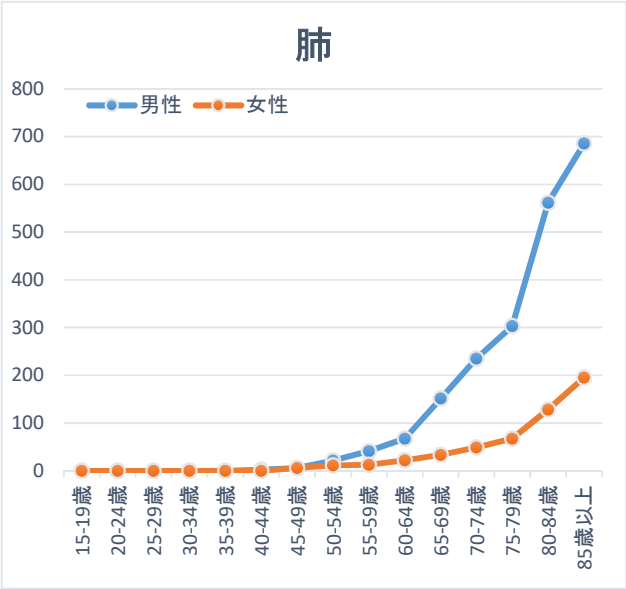


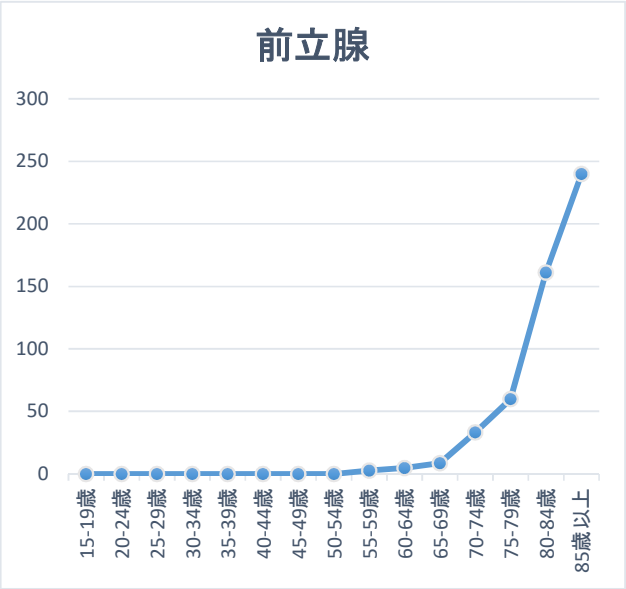


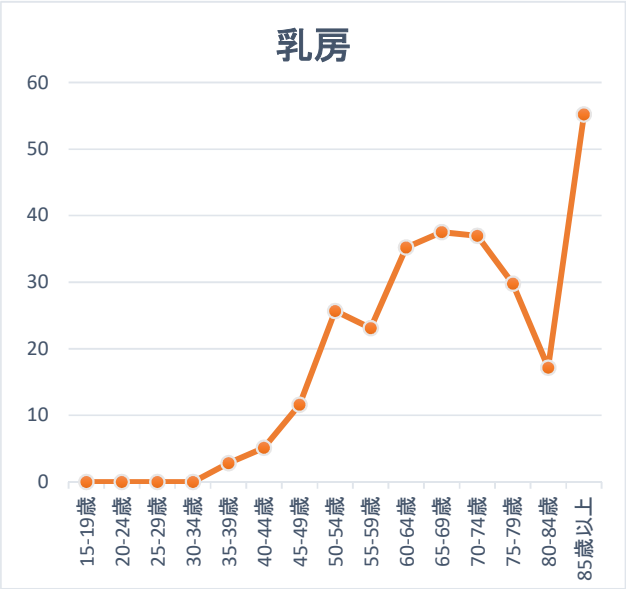


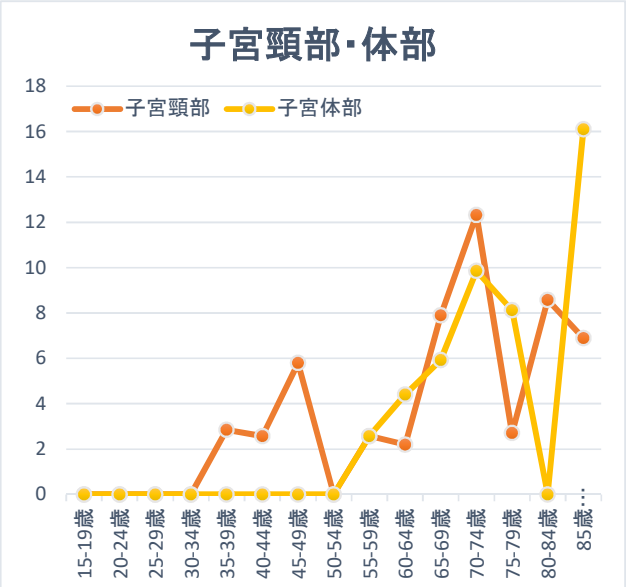


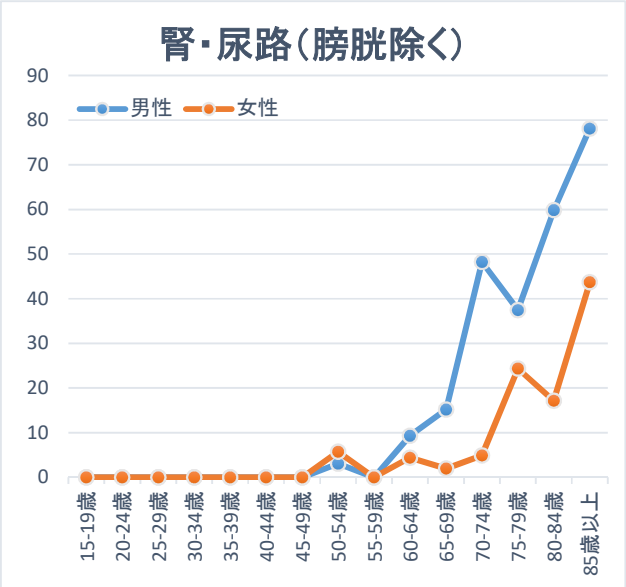


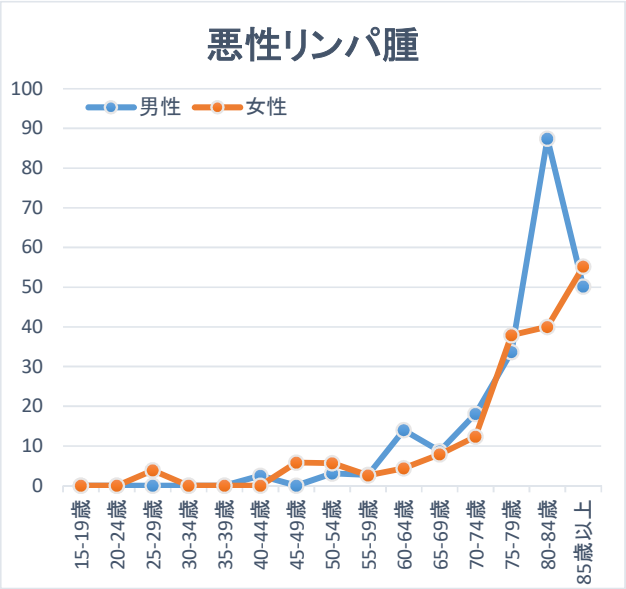


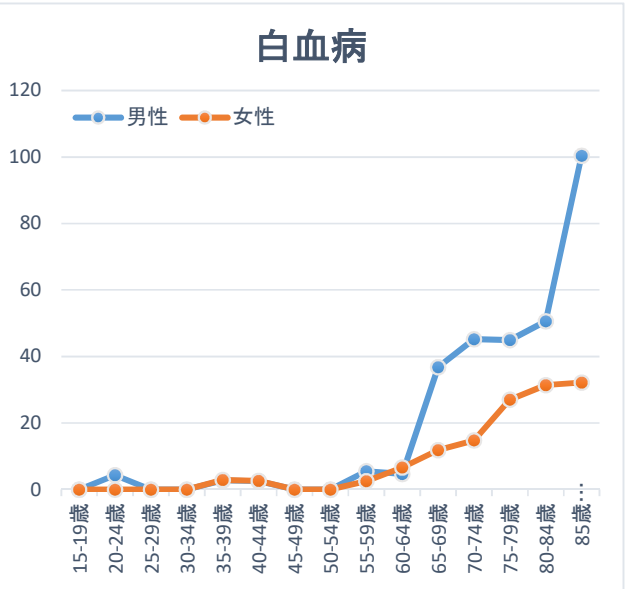

前立腺
300
250
200
150
100
50
0
15-19歳
20-24歳
25-29歳
30-34歳
35-39歳
40-44歳
45-49歳
50-54歳
55-59歳
60-64歳
65-69歳
70-74歳
75-79歳
80-84歳
85歳以上

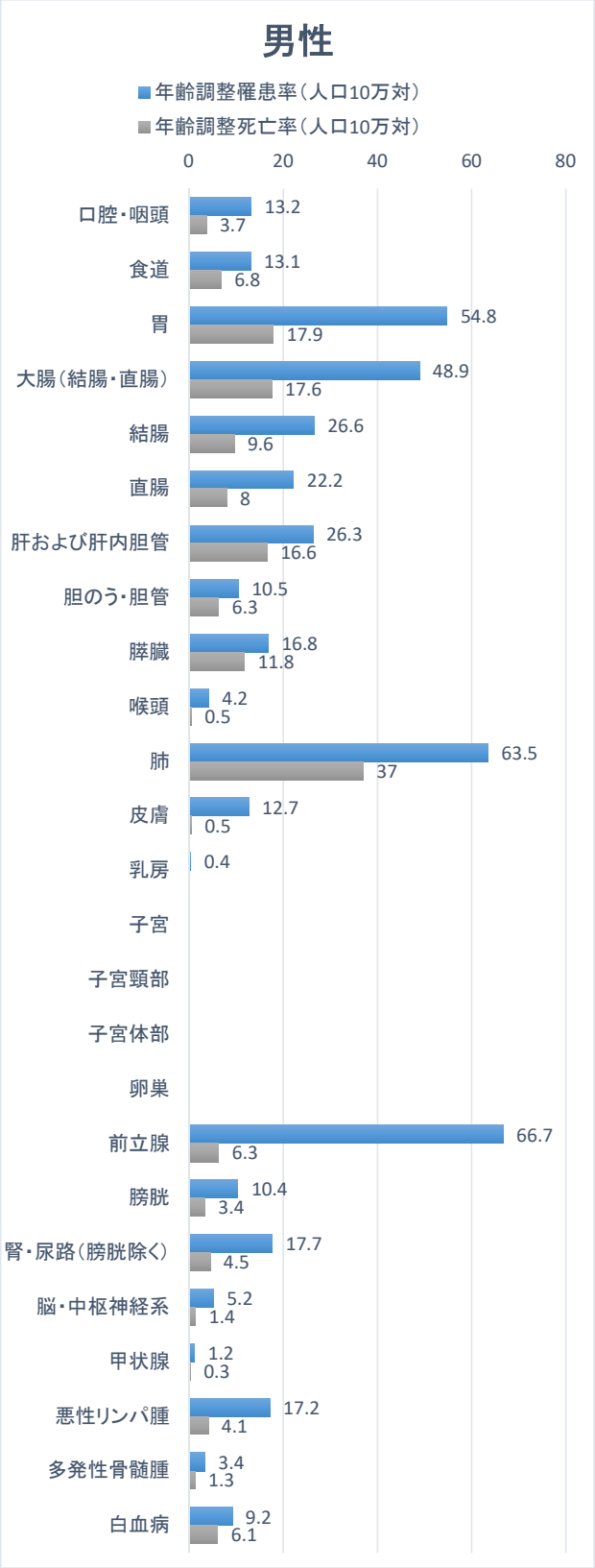
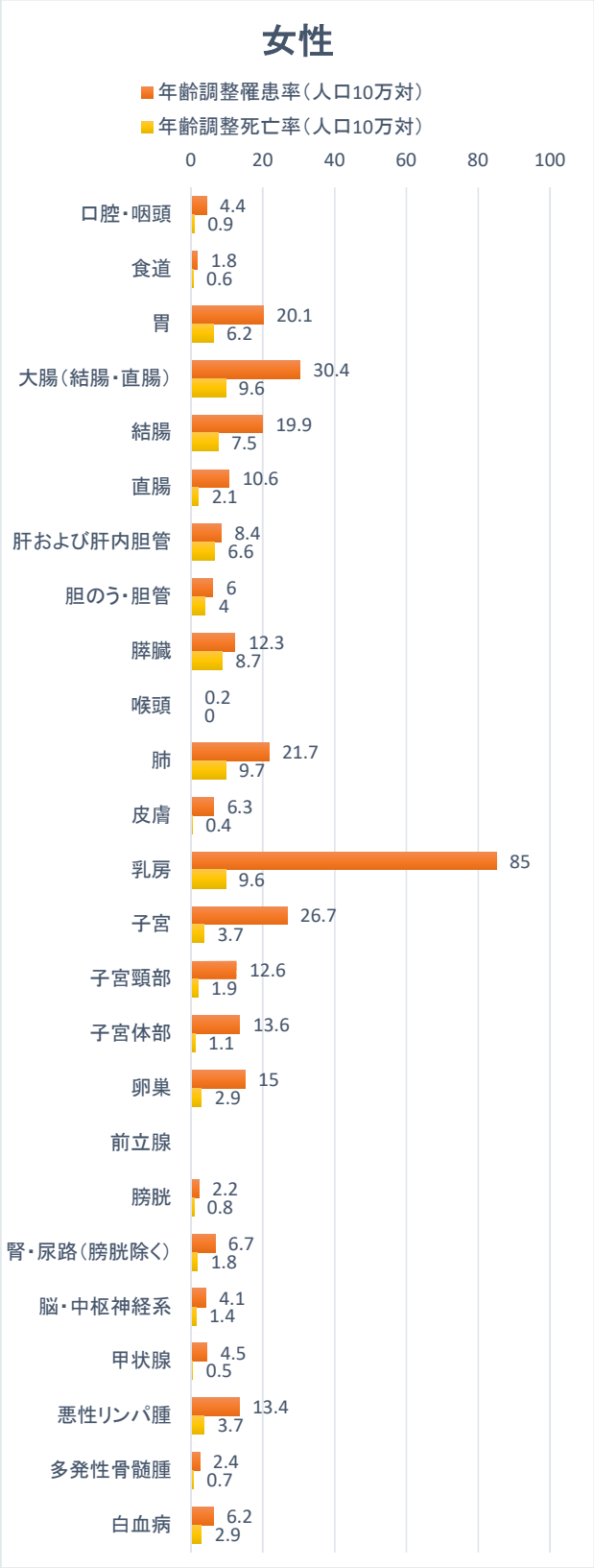

乳房
60
50
40
30
20
10
0
15-19歳
20-24歳
25-29歳
30-34歳
35-39歳
40-44歳
45-49歳
50-54歳
55-59歳
60-64歳
65-69歳
70-74歳
75-79歳
80-84歳
85歳以上


子宮頸部・体部
子宮頸部
子宮体部
18
16
14
12
10
8
6
4
2
0
15-19歳
20-24歳
25-29歳
30-34歳
35-39歳
40-44歳
45-49歳
50-54歳
55-59歳
60-64歳
65-69歳
70-74歳
75-79歳
80-84歳
85歳…


腎・尿路（膀胱除く）
男性
女性
90
80
70
60
50
40
30
20
10
0
15-19歳
20-24歳
25-29歳
30-34歳
35-39歳
40-44歳
45-49歳
50-54歳
55-59歳
60-64歳
65-69歳
70-74歳
75-79歳
80-84歳
85歳以上


悪性リンパ腫
男性
女性
100
90
80
70
60
50
40
30
20
10
0
15-19歳
20-24歳
25-29歳
30-34歳
35-39歳
40-44歳
45-49歳
50-54歳
55-59歳
60-64歳
65-69歳
70-74歳
75-79歳
80-84歳
85歳以上


白血病
男性
女性
120
100
80
60
40
20
0
15-19歳
20-24歳
25-29歳
30-34歳
35-39歳
40-44歳
45-49歳
50-54歳
55-59歳
60-64歳
65-69歳
70-74歳
75-79歳
80-84歳
85歳…

大分県のがん罹患率とがん死亡率の比較

2015年の大分県男性の年齢調整罹患率は、高い順に前立腺、肺、胃、大腸、肝および肝内胆管であり、年齢調整死亡率は、高い順に肺、胃、大腸、肝および肝内胆管、膵臓となっている。女性の年齢調整罹患率は、高い順に乳房、大腸、子宮、肺、胃であり、年齢調整死亡率は、高い順に肺、乳房、大腸、膵臓、肝および肝内胆管となっている。